

科目名	音楽通論			講義コード	C110712008	担当教員	岡部 富士夫, 南川 肇
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	【授業の目的・ねらい】 音楽を理論的に解釈できる力を養うため、音楽を学ぶ上での基礎となる知識を習得する。 【授業全体の内容の概要】 Ⅰ期においては楽典をⅡ期においては楽式アナリゼを学ぶことにより、音楽の仕組み、成り立ちについて理解する。 【授業修了時の達成課題】 理論的知識を、音楽活動に応用する力を身につける。 【履修カルテの評価項目】 ①音程、音階、調の相互関係などを正しく理解しているか。 ②移調、転調、調の判定など理解しているか。 ③楽曲の構造を正しく理解しているか。						
受講資格	音楽科 1 年			成績評価方法	試験 80% 平常点 20%		
教科書	『楽典』、『和声と楽式のアナリゼ』音楽之友社						
参考書	なし						
学生への要望	音楽を学ぶ上での基礎であり理解しておかなければならない分野なので真剣に取り組んで下さい。						
オフィス	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション	音楽通論に対する説明、授業の進め方、評価方法の説明。
2	音・純正律と十二平均律	音の種類、音楽の3要素、倍音、純正律、十二平均律
3	譜表と音名	五線、音部記号、譜表、音名、変化記号
4	音符と休符	音符、休符の種類と長さ、連符、タイ
5	リズムと拍子Ⅰ	リズム、拍と拍子、拍子の表記
6	リズムと拍子Ⅱ	強起と弱起、拍子の種類、拍子の変化、シンコペーション
7	音程	度数、複音程、音程の転回
8	まとめ 小テスト	1～7回までの総括問題とその解説
9	音階Ⅰ	長音階、短音階、調、
10	音階Ⅱ	調の相互関係、移調と転調
11	音階Ⅲ	調判定
12	音階Ⅳ	調判定の解答法Ⅰ、教会旋法、全音音階
13	音階Ⅴ	調判定の解答法Ⅱ、練習問題
14	和音Ⅰ 速さ・強さに関する表記法	三和音と七の和音、様々な速さ・強さに関する表記法
15	和音Ⅱ 曲想・奏法に関する表記法	和音の機能、様々な曲想・奏法に関する表記法 音楽理論に関する総括問題
16	Bach 作曲2声のインヴェンション1番	主要動機、テトラコード、対位、調性、動機の転回、拡大、縮小など、アナリゼの基本となる知識について学ぶ。
17	Bach 作曲2声のインヴェンション2番	厳格カノンについての理解。カノンの作り方、様々なカノンの種類について学ぶ。

18	B a c h作曲2声のインヴェンション3番	動機、テーマ、対位と転回、ストレッタ、保続音、近接進行、コーダや偽終始について学ぶ。
19	B a c h作曲2声のインヴェンション4番	音階の仕組み、ヘキサコード、ヘミオラについて調べる。対位法的作法の中での和声的要素についても調べる。
20	B a c h作曲2声のインヴェンション5番	フーガについて説明。対位の形などについて調べる。
21	B a c h作曲2声のインヴェンション6番	和声的手法、長音階、短音階について説明。3部形式、カデンツ、ソナタ形式へと発展する過程について調べる。
22	B a c h作曲2声のインヴェンションのまとめ	これまでのまとめを行い、アナリーゼの仕方、考え方などを確認する。
23	キーボードハーモニー①非和声音①	授業の前半はピアノで全調カデンツと弾き、指と耳で調性感を捉える。非和声音について具体例を挙げながら説明する。
24	キーボードハーモニー①非和声音②	前回の授業を継続する。
25	キーボードハーモニー①非和声音③	前回の授業を継続する。
26	楽式について	2部形式、3部形式の簡単な説明と実践。
27	ソナタ形式、ロンド形式	ソナタ形式、ロンド形式について説明。
28	様々な和音とその用法①	ナポリのⅡ、ドリアのⅣ、フックスのⅤ、ラモーの五六、ドッペルドミナント、副Ⅴ度、準固有和音など様々な和音とその用法について学習する。
29	様々な和音とその用法②	様々な和音のついて実際の例を挙げてその使われ方について学ぶ。
30	変奏曲とまとめ	アナリーゼについてのまとめと、変奏についても学ぶ。短いモチーフを用いて変奏を試み、また変奏曲についても学習する。

科目名	和声学Ⅰ			講義コード	G110712009	担当教員	岡部 富士夫
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	「授業の目的・ねらい」 機能と和声の基礎を習得します。カデンツの仕組みや運声についての基本を学びます。 「授業の内容の概要」 属9の和音と簡単な転調を理解するまでが目標です。音楽理解の基礎となる分野なので初歩から丁寧に学びます。 「授業修了時の到達度」 更に進んだ内容については対位法、作曲法等で補填しますが、四声体の課題がスムーズに解けるようにします。 【履修カルテの評価項目】 ①各種和音や調についての理解が来ているか。 ②カデンツについて理解しているか。 ③和声進行や配置についての理解が来ているか。						
受講資格	音楽科1年			成績評価方法	試験80%、平常点20%		
教科書	「学生のための和声の要点」サーベル社						
参考書	なし						
学生への要望	すべての音楽の基礎となる科目であり予習、復習が重要です。						
ワイタム	火、水曜日10:30~14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	和音①	和音、3和音、3和音と音階、7の和音、基本形と転回形、和音記号の表記など和声学の基礎となる用語や和音形態について説明する。
2	和音②	和音、3和音、3和音と音階、7の和音、基本形と転回形、和音記号の表記など和声学の基礎となる用語や和音形態について説明する。
3	四声体の配置①	各声部の名称、各声部の音域、各声部間における配置の規則、四声体への配置、3和音基本形及び第2転回形の配置、3和音第1転回形の配置、7の和音の配置について学ぶ。
4	四声体の配置②	各声部の名称、各声部の音域、各声部間における配置の規則、四声体への配置、3和音基本形及び第2転回形の配置、3和音第1転回形の配置、7の和音の配置について学ぶ。
5	和音機能①	T（トニック）機能、D（ドミナント）機能、和音機能による和声進行の規定。D2からD6までの働き、仕組みについて学習する。
6	和音機能②	T（トニック）機能、D（ドミナント）機能、和音機能による和声進行の規定。D2からD6までの働き、仕組みについて学習する。
7	D－Tの連結	連結の規定、声部進行の規定、V－Iへの連結、V－I（1転）の連結、属7－I（転回形含む）の連結。
8	T－D－Tの連結	I－V（2転）－I（1転）I（1転）－V（2転）－Iの連結。2転の使い方について学ぶ。
9	T－Tの連結	I－I（1転）およびI（1転）－Iの連結。
10	TとD諸和音との連結①	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
11	TとD諸和音との連結②	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
12	TとD諸和音との連結③	T－D諸和音の連結、半終止、T－D（半終止）の連結、D（半終止）－Tの連結。
13	Ⅱ（1転）（D2）の和音①	Ⅱ（1転）の配置、Ⅱ（1転）－V（属7含む）の連結。

14	II (1 転) (D 2) の和音②	II (1 転) の配置、II (1 転) - V (属 7 含む) の連結。
15	I (2 転) - V (属 7 含む) の連結①	I (2 転) - V (属 7 含む) を用いた全終止、I (2 転) - V を用いた半終止、D 2 を含むバス課題の実施方法、D 2 を含むソプラノ課題の実施方法。
16	I (2 転) - V (属 7 含む) の連結②	I (2 転) - V (属 7 含む) を用いた全終止、I (2 転) - V を用いた半終止、D 2 を含むバス課題の実施方法、D 2 を含むソプラノ課題の実施方法。
17	属 7 (2 転) - I (1 転含む) の連結	属 7 (2 転) - I の連結、属 7 (2 転) - I (1 転) の連結。
18	VI (T) の和音	V (属 7 含む) - VI の連結、I (1 転含む) - VI の連結。
19	IV (1 転含む) (D 2) の和音	II (1 転) の代用、IV (1 転)、終止以外の箇所の IV (1 転含む)、D 2 の運用。
20	IV の和音	S (サブドミナント) 機能、S 機能における和音進行の限定、S としての IV、T-S-T の連結、和声進行における機能の連結規則のまとめ。
21	借用和音①	副次調、借用和音、副 V の和音、ドッペルドミナント、D 2 諸和音 - ドッペルドミナント、D 2 諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副 V の和音、V - 副 V 諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
22	借用和音②	副次調、借用和音、副 V の和音、ドッペルドミナント、D 2 諸和音 - ドッペルドミナント、D 2 諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副 V の和音、V - 副 V 諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
23	借用和音③	副次調、借用和音、副 V の和音、ドッペルドミナント、D 2 諸和音 - ドッペルドミナント、D 2 諸和音を含むバス課題とソプラノ課題の実施方法、その他の副 V の和音、V - 副 V 諸和音の連結、移調と移旋、準固有和音。
24	根音省略形	根音省略形、属 7 の根音省略形、ドッペルドミナントの根音省略形。
25	属 9、副属 9 の和音①	属 9 の和音、属 9 の和音の準固有和音、ドッペルドミナントの 9、ドッペルドミナントの 9 の準固有和音、ドッペルドミナントの下方変位、副属 9 の和音。
26	属 9、副属 9 の和音②	属 9 の和音、属 9 の和音の準固有和音、ドッペルドミナントの 9、ドッペルドミナントの 9 の準固有和音、ドッペルドミナントの下方変位、副属 9 の和音。
27	II の 7 の和音①	II の 7 の和音と配置、D 諸和音への連結、先行和音から II の 7 の和音への連結、ソプラノ課題における II の 7 と II (1 転) の使い分け、II の 7 からドッペルドミナント諸和音への連結、II の 7 を含む定型。
28	II の 7 の和音②	II の 7 の和音と配置、D 諸和音への連結、先行和音から II の 7 の和音への連結、ソプラノ課題における II の 7 と II (1 転) の使い分け、II の 7 からドッペルドミナント諸和音への連結、II の 7 を含む定型。
29	転位音①	和声音と非和声音、定位と変位、転位音の種類、転位音を含むときの配置上の規則、I 度上の属 7 の和音、転位音から転位音への進行、定位音による修飾、同種和音の連結。
30	転位音②	和声音と非和声音、定位と変位、転位音の種類、転位音を含むときの配置上の規則、I 度上の属 7 の和音、転位音から転位音への進行、定位音による修飾、同種和音の連結。

科目名	和声学Ⅱ			講義コード	G210712013	担当教員	岡部 富士夫
対象	2 年	開講期	Ⅲ期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	「授業の目的・ねらい」 和声学Ⅰで学んだ基礎をもとに和声学Ⅱでは対位法を中心に学習します。対位法は原語では Contra Punctus(Punctus Contra Punctus)の意味であり、広義には旋律対旋律という意味です。このように、旋律対旋律の形成は音楽の本質として現代まで伝承され、現代では単に作曲技法に留まらず多声部音楽を理解する上で欠くことのできない学習です。 「授業の内容の概要」 はじめは和声学の不足部分を補い、旋律対旋律の初歩の書き方から学びます。 「授業修了時の達成度」 二声対位法の仕組みを理解し、自由な発想で書ける事を目標とします。 【履修カルテの評価項目】 ①定旋律に対して適切な対旋律が書けるか。 ②1対自由まで理解しているか。 ③カノンやフーガの基礎を理解しているか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	試験80%、平常点20%		
教科書	「対位法」音楽之友社						
参考書	なし						
学生への要望	音楽の専門教科で特に難解であるため、復習が大切であり、実習が大切です。						
オフィス	火、水曜日10:30～14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	対位法の定義	対位法とは定旋律と規範的対旋律の協唱である事を学習する。
2	定旋律と対旋律①	対位法と音楽の成り立ちについて。 定旋律と対旋律について。
3	定旋律と対旋律②	定旋律の性格とその形成について。
4	定旋律と対旋律③	対旋律の形成と和声的関連性について。 非和声音と旋律動向について。
5	定旋律と対旋律④	定旋律と対旋律との和声的関連性について。
6	定旋律と対旋律⑤	対旋律を創るにあたって留意点について。 アクセント旋律動向について。
7	定旋律と対旋律⑥	和声的動向、結尾等の形成について。
8	二分音符対位法①	二声対位法を実際に創り、定旋律と対旋律の旋律動向を学習する。
9	二分音符対位法②	二分音符対位法を実習和声で学習した四声体和声連結を参考にし て。
10	二分音符対位法③	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。
11	二分音符対位法④	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。
12	四分音符対位法①	旋律動向において非和声音の使い方を理解し、対旋律の音楽的動向 と和声との関係について。
13	四分音符対位法②	四分音符対位法の実習。
14	四分音符対位法③	四分音符対位法の実習和声的動向において音楽的禁則を学習する。
15	移勢対位法	移勢対位法についての説明と分析。

科目名	音楽史			講義コード	G110712010	担当教員	南川 肇
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	【授業の目的・ねらい】 音楽と時代的背景の係わりを理解し、歴史の推移に伴う音楽の変化を様式の変化として捉える。 【授業全体の内容の概要】 古代音楽から、20世紀の音楽をそれぞれの時代の流れに沿って学習する。また、人属音学について学習する。 【授業修了時の達成課題】 知識としての音楽史を、実際の演奏活動等に生かすことができる。 【履修カルテ評価項目】 1. 音楽そのものを理解できたか。 2. 歴史の推移に伴う音楽の変化を様式の変化として理解できたか。 3. 音楽と時代的背景の係り理解できたか。						
受講資格	音楽科1年			成績評価方法	平常点20% レポート80%		
教科書	『新音楽史』 H.M.ミラー著 東海大学出版						
参考書	『グラウト 西洋音楽史』 上下 音楽之友社						
学生への要望	知識としての音楽史にとどまらず、実際の音楽活動に役立てたい。						
ウェブサイト	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	古代文明の音楽①	人間生活と一体になっていた音楽を理解する。
2	古代ギリシアの音楽②	古代オリエントからの影響で形成した音楽を、さらに、初期キリスト教音楽に受け渡すという視点で考える。
3	古代ローマ時代の音楽	古代ローマ時代に各地で展開された初期キリスト教音楽が、グレゴリオ聖歌に集束されていく事情を勉強する
4	中世の音楽①	多声音楽の出現と発展を、キリスト教音楽の中で見ていく。
5	中世の音楽②	多声音楽の出現と発展を、キリスト教音楽の中で見ていく。
6	ルネサンス音楽①	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
7	ルネサンス音楽②	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
8	ルネサンス音楽③	多声音楽の成熟、機能と声とバロック音楽の萌芽をルネサンス音楽の中に見つける。
9	バロック音楽①	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
10	バロック音楽②	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
11	バロック音楽③	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
12	バロック音楽④	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
13	バロック音楽⑤	教会旋法から調性音楽への推移、声楽様式と器楽様式の分離と、それぞれの発展を勉強する。
14	古典派音楽①	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。

15	古典派音楽②	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
16	古典派音楽③	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
17	古典派音楽④	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
18	古典派音楽⑤	古典主義概論、前古典派音楽、ウィーン古典派音楽、古典派音楽の技法などを勉強する。
19	ロマン派音楽①	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
20	ロマン派音楽②	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
21	ロマン派音楽③	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
22	ロマン派音楽④	。ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
23	ロマン派音楽⑤	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
24	ロマン派音楽⑥	ロマン主義概論、初期ロマン派音楽、中期ロマン派音楽、新ロマン主義音楽、後期ロマン主義音楽などについて勉強する。
25	20世紀の音楽①	20世紀の音楽の音楽について勉強する。
26	20世紀の音楽②	20世紀の音楽の音楽について勉強する。
27	日本音楽	日本音楽のリズムと旋法について学ぶ。
28	バリ島の音楽と舞踊	バリ島の楽器、音楽的特質を学ぶ。
29	朝鮮半島の民族音楽と舞踏	韓国の国学の種類と舞踏の特質を学ぶ。
30	まとめと確認	音楽史全体のまとめと確認

科目名	作曲法			講義コード	G210712005	担当教員	岡部 富士夫
対象	2 年	開講期	通年	必・選	選択	単位数	2
授業目標	「授業の目的・ねらい」 楽式アナリーゼや和声学、対位法の学習を踏まえて作品制作に取り組みます。この事は実際の作品理解に大きく役立つものです。 「授業全体の内容の概要」 楽器論、編曲法についても学び、大きな視点から演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 「授業修了後の到達目標」 作品の制作過程を知る事により、演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 【履修カルテの評価項目】 ①和声学や対位法についての基礎知識があるか。 ②美しいメロディーを作ることができるか。 ③楽器や編曲法について理解しているか。						
受講資格	音楽科 2 年			成績評価方法	作品評価80%、平常点 2 0 %		
教科書	無し						
参考書	無し						
学生への要望	作曲を専門にする事ではなく、音楽理解において必要な事柄なので積極的に取り組んで下さい。						
ワイルドタイム	火、水曜日10:30～14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	特殊和音 1 ドッペルドミナント	和声学（1 年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1 としてドッペルドミナントの説明。
2	特殊和音 2 副 V 度	副 V 度の考え方と用法。実際の例で説明。簡単な旋律を作り、副 V 度を使ってみる。基本的にドッペルドミナントと副 V 度の使用について理解をする。 ここでは 1 年次の全調カデンツが役に立つはずである。
3	特殊和音 3 準固有和音	準固有和音と借用和音について例を挙げて説明。響き、用法などを会得する。楽曲の様式感とも関わることなので効果的に活用することを学ぶ。 またここでは終始法、カデンツの原理について再度学ぶ。
4	特殊和音 4 ナポリの II ドリアの IV	ナポリの II、ドリアの IV について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。
5	特殊和音 5 フックスの V ラモーの五六	フックスの V、ラモーの五六について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。
6	特殊和音のまとめ 1	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練をする。簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。
7	特殊和音のまとめ 2	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練の 2。 簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。
8	特殊和音のまとめ 3	前 2 授業の作品を完成させる。提出、評価。
9	変奏 1	変奏は作曲学上最も大事な技術の一つである。変奏の実際について様々な例から学ぶ。 実技を通して数多くの変奏を試みる。
10	変奏 2	変奏の実際についての続き。 数多くの変奏を試みることによってより理解を深める。
11	変奏曲 1	簡単な変奏曲の作曲。テーマは自作でも既成の楽曲でも良いが、無理のない 自然な変奏が出来るよう心がける。

12	変奏曲 2	前週の作業の続きを行う。
13	変奏曲 3	前週の作業の続きを行う。
14	変奏曲 4	変奏曲の完成。提出、評価。
15	管弦楽法	管弦楽法への導入。 合奏の諸形態、響きについての説明などを行いⅣ期に行う管弦楽法への導入とする。
16	管弦楽法、楽器論①	Ⅳ期は主に管弦楽法を学び、楽曲の編曲を行う。 楽器論①としてフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットなど木管楽器の特性について学ぶ。
17	管弦楽法、楽器論②	楽器論②としてホルン、トランペット、トロンボーン、チューバなど金管楽器の特性について学ぶ。 素材、奏法など。
18	管弦楽法、楽器論③	楽器論③としてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスなど弦楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。
19	管弦楽法、楽器論④	ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、その他打楽器は種類が多い。その中から主にオーケストラや吹奏楽で用いられる打楽器について学ぶ。
20	管弦楽法、楽器論⑤	特殊楽器や打楽器などについて補足説明。
21	管弦楽法	各楽器の組み合わせ方や管楽器と弦楽器の音量の違い、バランスなど実際の管弦楽作品を参考にしながら研究する。
22	管弦楽法、編曲①	ソナチネなどの簡単なピアノ曲を木管アンサンブルやその他の室内楽作品としてアレンジする。 学生間でアンサンブルできる編成が望ましい。
23	管弦楽法、編曲②	授業の中で実際に編曲する。楽器の使い方、技術面の特性など編曲しながら考える。一人ひとりの疑問に答え、添削も行う。 以下3回にわたりこの作業を続ける。作業①
24	編曲②	前週の続き作業② 質問を受けながら作ってゆく。
25	編曲③	前週の続き作業③ 質問を受けながら作ってゆく。
26	編曲④	編曲の仕上げを行い、パート譜の作成をする。
27	編曲のまとめ	数名の作品を選び、学生同士で演奏し、それぞれの作品について聴きあい、批評しあう。 提出、評価。
28	歌曲①	歌曲は無駄がなく、もっとも技術を要する。言葉を伴うことから詩句の解釈や日本語のイントネーションを吟味し、必然性のあるメロディを作成することが要求される。
29	歌曲②	それぞれ選んだ詩について歌曲を作成。これを前回同様2回にわたって行う。作業①
30	歌曲③	作業②歌曲の仕上げ、清書して完成させる。提出、評価。

科目名	指揮法			講義コード	G210712017	担当教員	岡部 富士夫
対象	2 年	開講期	Ⅲ期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	「授業の目的・ねらい」 指揮法は単に指揮の仕方を学ぶだけではなく表現力や楽曲の分析、音楽に対してどう向き合うかを学ぶものです。 「授業全体の内容の概要」 音楽を正しく理解し表現する力を習得します。合唱やオーケストラの指揮の実際を学びます。 「授業終了時の到達目標」 楽曲を分析し、正しく伝える技術を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①図形を正しく振る事ができるか。 ②作品を解釈することが出来ているか。 ③自分の意思を明確に伝えられているか。						
受講資格	音楽科 2 年			成績評価方法	実技試験 80%、平常点 20%		
教科書	斉藤秀雄著「指揮法教程」音楽之友社						
参考書	なし						
学生への要望	オーケストラや合唱を指揮するということは作品をどれだけ知っているかにかかります。広い視野から音楽に向き合う姿勢が大事です。						
ガイダンス	火、水曜日 10:30~14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション	指揮とは何か、指揮者の必要性とは何か、について学ぶ。
2	基礎訓練①	叩きは指揮の基本である。平均運動、加速、減速について練習する。
3	基礎訓練②	叩きと各拍子について。 図形について。
4	ウェーバー・ヴァリエーション①	ウェーバーのヴァリエーションを教材として予備、平均運動の練習。
5	ウェーバー・ヴァリエーション②	曲中にあるフェルマータ、rit. やcrescendoの振り方についての練習、強弱やアインザッツについての練習。
6	あかるい日の歌Ⅱ	変拍子、8分の8、8分の7、8分の5などの振り方、分割、省略について。
7	ハイドン・アレグロ ①	ハイドンのアレグロを教材に打法の練習。
8	ハイドン・アレグロ②	裏拍の指示の仕方、テンポの速い曲への対応の仕方。
9	ベートーヴェン交響曲第1番 ①	ベートーヴェンの交響曲第1番の第1楽章序奏の部分を振る。 スコアの見方について学ぶ。
10	ベートーヴェン交響曲第1番 ②	分割の仕方、楽器の特性、音色の変化など。
11	ベートーヴェン交響曲第1番 ③	休符の処理、tuttiのアインザッツ。 各パートへのアインザッツ。
12	ベートーヴェン交響曲第1番④	音源を聴きイメージを作る。 弓、プレスと棒の関係。
13	ベートーヴェン交響曲第1番⑤	全体を振る。 批評しあう。
14	ベートーヴェン交響曲第1番⑥	全体を振る。 批評しあう。
15	ベートーヴェン交響曲第1番 ⑦	指揮法のまとめ。

科目名	声楽Ⅰ（主科）			講義コード	C110712002	担当教員	磯部 哲夫, 割谷 由美子
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 【授業終了時の到達課題（到達目標）】 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができたか。 ③感性を生かした歌曲表現ができたか。						
受講資格	音楽科 1 年			成績評価方法	平常点10点 実技試験90点		
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集						
参考書	特になし						
学生への要望	1 年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。						
ワキタイム	月・火・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	前期ガイダンス	声楽に対しての心構え、練習方法、レッスンの進め方、評価方法について説明
2	発声法・1	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程、跳躍音程による発声
3	発声法・2	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程、跳躍音程による発声 ④歌曲のフレージング処理法について解説する
4	イタリア古典歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
5	イタリア古典歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
6	イタリア古典歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
7	イタリア古典歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
8	イタリア古典歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
9	イタリア古典歌曲・6	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する

10	前期小テスト	イタリア古典歌曲集より選択した楽曲
11	イタリア古典歌曲・7	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
12	イタリア古典歌曲・8	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
13	イタリア古典歌曲・9	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
14	イタリア古典歌曲・10	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する
15	イタリア古典歌曲・11	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集Ⅰ・Ⅱより指定された楽曲の歌唱法を解説する ④ステージマナーについて解説する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法について説明
17	ドイツ歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
18	ドイツ歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
19	ドイツ歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
20	ドイツ歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
21	ドイツ歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②ドイツ語ディクシオン ③ドイツ歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
22	日本歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
23	日本歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
24	日本歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
25	日本歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸・共鳴 ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
26	後期試験曲・1	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクシオン ③試験曲の歌唱法を解説する
27	後期試験曲・2	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクシオン ③試験曲の歌唱法を解説する
28	後期試験曲・3	①発声・・・1年次の総括 ②試験曲の原語ディクシオン ③試験曲の歌唱法を解説する

29 後期試験曲・4

- ①発声・・・1年次の総括
- ②試験曲の原語ディクショ
- ③試験曲の歌唱法を解説する

30 後期試験曲・5

- ①発声・・・1年次の総括
 - ②試験曲の原語ディクショ
 - ③試験曲の歌唱法を解説する
-

科目名	声楽Ⅰ（副科）			講義コード	C110712005	担当教員	磯部 哲夫, 割谷 由美子
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を習得。 ②原語発音・・・正確なイタリア語、ドイツ語の発音の習得 ③歌唱法・・・発声を活かし、自然な息の流れを意識したフレージングを身に付ける。 【授業全体の内容の概要】 ①歌唱の姿勢、腹式呼吸といった発声の基本を身に付け、それを活かした息の流れで楽曲をフレージングする歌唱を实践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 【授業修了時の到達課題（到達目標）】 発声の基本を正確に身に付け、その発声を活かした歌唱法で歌唱することができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基本姿勢、腹式呼吸を習得できたか。 ②正確な原語発音ができただか。 ③自然な息の流れで楽曲をフレージングできたか。						
受講資格	音楽科 1 年			成績評価方法	平常点10点 実技試験90点		
教科書	コンコーネ 50 番 イタリア古典歌曲集 イタリア近代歌曲集 ドイツ歌曲集						
参考書	特になし						
学生への要望	声楽Ⅰ（副科）では発声法と歌唱法の基本の習得を目標とする。レッスンの積み重ねが重要となるので、基本動作をしっかりと習得すること。						
ワイタム	月・火・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	前期ガイダンス	レッスンに当たっての心構え、レッスンの進め方、ローテーション、評価方法についての説明
2	発声法・1	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程による発声
3	発声法・2	①基本姿勢について解説する ②腹式呼吸について解説する ③順次音程による発声 ④歌唱におけるフレージングについて解説する
4	コンコーネ 50 番・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
5	コンコーネ 50 番・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
6	コンコーネ 50 番・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸 ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する
7	コンコーネ 50 番・4、イタリア古典歌曲・1	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅰ ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する ③イタリア語ディクシオン
8	コンコーネ 50 番・5、イタリア古典歌曲・2	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅱ ②コンコーネ 50 番より指定された楽曲の歌唱法を解説する ③イタリア語ディクシオン ④イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
9	イタリア古典歌曲・3	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅲ ②イタリア語ディクシオン ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する

10	イタリア古典歌曲・4	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅳ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
11	イタリア古典歌曲・5	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅴ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
12	イタリア古典歌曲・6	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅵ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
13	イタリア古典歌曲・7	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅶ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
14	イタリア古典歌曲・8	①発声・・・基本姿勢・腹式呼吸Ⅷ ②イタリア語ディクショ ③イタリア古典歌曲集より指定された楽曲の歌唱法を解説する
15	イタリア古典歌曲・9	①発声についての前期のまとめ ②イタリア語発音についての前期のまとめ ③イタリア古典歌曲の歌唱法についての前期のまとめ
16	後期ガイダンス	イタリア古典歌曲、イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲のレッスンの進め方、ロゼーション、評価方法についての説明
17	イタリア古典歌曲・1	①発声法・・・共鳴法について解説 ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲の楽曲研究と歌唱法の解説。
18	イタリア古典歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸と共鳴の流れについて解説Ⅰ ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲の楽曲研究と歌唱法の解説。
19	イタリア古典歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸と共鳴の流れについて解説Ⅱ ②イタリア古典歌曲Ⅱより指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説。
20	イタリア近代歌曲・1	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅰ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
21	イタリア近代歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅱ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
22	イタリア近代歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅲ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
23	イタリア近代歌曲・4	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅳ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
24	イタリア近代歌曲・5	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅴ ②イタリア語ディクショ ③イタリア近代歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
25	ドイツ歌曲・1	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅵ ②ドイツ語の発音について ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
26	ドイツ歌曲・2	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅶ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
27	ドイツ歌曲・3	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅷ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
28	ドイツ歌曲・4	①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得Ⅸ ②ドイツ語ディクショ ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説

29 ドイツ歌曲・5

- ①発声法・・・腹式呼吸による共鳴の習得X
- ②ドイツ語ディクショーン
- ③ドイツ歌曲より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説

30 後期まとめ

- ①発声法についての後期のまとめ
- ②イタリア語、ドイツ語の発音についての後期のまとめ
- ③イタリア近代歌曲、ドイツ歌曲についての楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ

科目名	声楽Ⅱ（主科）			講義コード	C210712011	担当教員	磯部 哲夫
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 【授業終了時の到達課題（到達目標）】 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③感性を生かした歌曲表現ができただか。						
受講資格	音楽科 1 年			成績評価方法	平常点10点 実技試験90点		
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集						
参考書	特になし						
学生への要望	1 年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。						
ウェブサイト	月・火・水曜日のⅤ限、木曜日のⅡ・Ⅳ限 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショント ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する

7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する

23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

科目名	声楽Ⅱ（主科）			講義コード	C210712002	担当教員	割谷 由美子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・歌唱の姿勢、腹式呼吸、共鳴の基本を修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語、ドイツ語の発音を修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①発声の基本を理解し、各原語による芸術歌曲の歌唱表現を体現する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 【授業終了時の到達課題（到達目標）】 正確な発声を修得し、各原語による芸術歌曲を感性を生かし舞台表現できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③感性を生かした歌曲表現ができただか。						
受講資格	音楽科 1 年			成績評価方法	平常点10点 実技試験90点		
教科書	イタリア古典歌曲集 ドイツ歌曲集 日本歌曲集						
参考書	特になし						
学生への要望	1 年次で発声法の基本をしっかりと習得すること。発声を土台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。						
ワイルド	月火 レッスン室No.1						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、各個人、声種に合ったドイツ歌曲（モーツァルト、シューベルト、シューマン、ブラームス、R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルク）の選択、評価方法について説明。
2	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・1	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
3	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・2	①発声・・・1年次の復習 ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
4	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・3	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
5	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派）・4	①発声・・・共鳴を中心に解説する ②モーツァルトかシューベルトの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④ドイツ語のアクセントを生かしたフレージング
6	ドイツ歌曲（ロマン派）・1	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シューベルト、シューマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクショ ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する

7	ドイツ歌曲（ロマン派）・2	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シュニベルト、シュニマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
8	ドイツ歌曲（ロマン派）・3	①発声・・・息の流れと共鳴の関係について解説する ②シュニベルト、シュニマン、ブラームスの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を習得する
9	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・1	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
10	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・2	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
11	ドイツ歌曲（後期ロマン派）・3	①発声・・・背中からの息の流れを感じ共鳴させるメカニズムを解説する ②R. シュトラウス、ヴォルフ、マーラー、シェーンベルクの歌曲より選択した楽曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④ドイツ歌曲のアーティキュレーションを解説する
12	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・1	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
13	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・2	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
14	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・3	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
15	ドイツ歌曲（古典派、ロマン派、後期ロマン派）・4	①発声・・・Ⅲ期のまとめ ②試験曲の歌唱法を解説する ③ドイツ語ディクシオン ④発声を生かしたドイツ歌曲のアーティキュレーションを習得する
16	後期ガイダンス	前期試験の反省を踏まえたレッスンの進め方、定期演奏会オーディション、卒業試験に向けての楽曲選択、評価方法についての説明。
17	定期演奏会オーディションの楽曲・1	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
18	定期演奏会オーディションの楽曲・2	①発声・・・Ⅲ期の復習 ②各自選択した定期演奏会オーディションの楽曲レッスン
19	オペラアリア・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
20	オペラアリア・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
21	オペラアリア・3	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
22	オペラアリア・4	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する

23	日本歌曲・1	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択した日本歌曲の歌唱法を解説する ③発声を生かした日本語のアーティキュレーションを解説する
24	日本歌曲・2	①発声・・・姿勢、腹式呼吸、共鳴を完全に習得する ②各自選択したオペラアリアの歌唱法を解説する ③レチタティーヴォの歌唱法を解説する
25	卒業試験曲・1	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
26	卒業試験曲・2	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
27	卒業試験曲・3	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
28	卒業試験曲・4	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
29	卒業試験曲・5	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する
30	卒業試験曲・6	①発声・・・2年間のまとめ ②各自選択した日本歌曲と外国語歌曲またはオペラアリアの歌唱法を解説する

科目名	声乐Ⅱ（副科）			講義コード	C210712020	担当教員	割谷 由美子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	【授業の目的・ねらい】 ①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける 【授業全体の内容の概要】 ①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。 【授業終了時の到達課題（到達目標）】 正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。						
受講資格	音楽科 2 年			成績評価方法	平常店 10 点 実技試験 90 点		
教科書	イタリア古典歌曲集Ⅰ、Ⅱ イタリア近代歌曲 ドイツ歌曲集 日本歌曲集						
参考書	特になし						
学生への要望	レッスンでの指摘を把握し、次回には改善が見られるように、日々の練習に励むこと。						
学びたい	月火 レッスン室No.1						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明
2	日本歌曲・1	①発声法・・・1年次の復習 ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
3	日本歌曲・2	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅰ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
4	日本歌曲・3	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅱ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
5	日本歌曲・4	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅰ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
6	日本歌曲・5	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅱ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
7	日本歌曲・6	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅲ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
8	日本歌曲・7	①発声・・・共鳴法と頭声の習得Ⅳ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
9	日本歌曲・8	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅴ ②日本語ディクショント ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説

10	日本歌曲・9	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅵ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
11	日本歌曲・10	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅶ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
12	日本歌曲・11	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
13	日本歌曲・12	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅸ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
14	日本歌曲・13	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅹ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説
15	前期まとめ	①発声法のまとめ ②日本語発音のまとめ ③日本歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法についての説明
17	各原語による歌曲・1	①発声法の総合的な習得Ⅰ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
18	各原語による歌曲・2	①発声法の総合的な習得Ⅱ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
19	各原語による歌曲・3	①発声法の総合的な習得Ⅲ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
20	各原語による歌曲・4	①発声法の総合的な習得Ⅳ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
21	各原語による歌曲・5	①発声法の総合的な習得Ⅴ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
22	各原語による歌曲・6	①発声法の総合的な習得Ⅵ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
23	各原語による歌曲・7	①発声法の総合的な習得Ⅶ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
24	各原語による歌曲・8	①発声法の総合的な習得Ⅷ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
25	各原語による歌曲・9	①発声法の総合的な習得Ⅸ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
26	各原語による歌曲・10	①発声法の総合的な習得Ⅹ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得

27	各原語による歌曲・11	①発声法の総合的な習得Ⅺ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
28	各原語による歌曲・12	①発声法の総合的な習得Ⅻ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
29	各原語による歌曲・13	①発声法の総合的な習得のまとめ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得
30	後期まとめ	①発声法のまとめ ②各原語の発音についてのまとめ ③各原語による歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ

科目名	ピアノⅠ（主科）			講義コード	C110712003	担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	〔授業の目的・狙い〕 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 〔授業全体の内容の概要〕 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題〕 多声部音楽、古典派の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 〔履修カルテ評価項目〕 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②バッハの作品を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を通して、古典楽曲の演奏法をある程度理解できましたか。						
受講資格	短大音楽科 1 年			成績評価方法	実技試験 90%、平常点 10%		
教科書	ツェルニー、バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、ハイドン等の作品を進度に応じてその都度指示。						
参考書	特になし。						
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。						
ウェブサイト	月曜日から金曜日 12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタの学習。正確な読譜力を身につける。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 モーツァルトまたはハイドンのソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。

10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタを楽式的に分析し、楽曲表現の学習に役立てる。
11	基礎技術の学習まとめと確認	練習曲を演奏し、これまでの学習の成果を確認する。 また、その反省を活かして今後の学習方法についての確認を行う。
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小曲の学習。正確な読譜力を身につける。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 後期の試験に備えて、ベートーヴェンのソナタの正確な読譜。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ベートーヴェンのソナタの楽曲分析、様式などを学習する。またモーツァルトやハイドンのソナタとの違いを学習する。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタのエスプレッション、フレージング、アーティキュレーションを学習し、曲の内容を把握する。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの内容の把握。テンポやペダリングなどを確認し、演奏表現を深めていく。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。

28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ソナタの演奏表現を深める。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅠ（副科）			講義コード	C110712006	担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	【授業の目的・狙い】 ピアノ学習を考える時、技術と演奏表現が表裏一体である事を理解し、基礎的技術や表現法を学ぶことを目的とする。 【授業全体の内容の概要】 演奏時の姿勢、タッチ等、表現をするための方法や技術の習得のために個々人のレベルに応じた授業を展開する。基本の練習曲や多声部音楽、古典派の楽曲を中心に学習し、作品のスタイルを理解し表現するための技術や演奏法を学ぶ。 【授業修了時の達成課題】 多声部音楽、古典派等の楽曲のスタイルを理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現ができるようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①ピアノ演奏技術の問題点がある程度把握し、演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②多声部音楽を勉強して曲の構成と演奏法を理解する事ができましたか。 ③古典派の作品を通して、古典派の演奏法をある程度理解できましたか。						
受講資格	短大音楽科 1 年			成績評価方法	実技試験 90%、平常点 10%		
教科書	ツェルニー、バッハ、古典派等の作品を進度に応じてその都度指示。						
参考書	特になし。						
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。						
ワキタム	月曜日から金曜日 12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス	レッスンの進め方、1年間の学習方法や心構えについて説明。 次回の授業の課題の確認。
2	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
4	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

11	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向けて演奏表現を深める。 古典派の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
17	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
21	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。
22	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。試験に向けて、正確な読譜と表現について考える。
23	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
24	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
25	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
26	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
27	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。

28	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
29	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向けて表現を深める。
30	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得。 バッハ等の作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派作品やロマン派の小品の学習。楽曲分析と演奏法。試験に向け最終的な仕上げをする。

科目名	ピアノⅡ（主科）			講義コード	C210712007	担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	〔授業の目的・狙い〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。 〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 〔履修カルテ評価項目〕 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。						
受講資格	短大音楽科 2 年			成績評価方法	実技試験 90%、平常点 10%		
教科書	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。						
参考書	特になし						
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。						
ウェブサイト	月曜日から金曜日 12:00～12:50 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 卒業研究の曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

29 演奏表現 9

練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。
バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。
卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

30 演奏表現 10

練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。
バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。
卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。

科目名	ピアノⅡ（副科）			講義コード	G210712010	担当教員	深谷 登喜子, 横溝 聡子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	【授業の目的・狙い】 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 【授業全体の内容の概略】 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。 【授業修了時の達成課題】 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 【履修カルテ評価項目】 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏テクニック等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派や近現代等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。						
受講資格	短大音楽科 2 年			成績評価方法	実技試験 9 0 %、平常点 1 0 %		
教科書	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。						
参考書	特になし						
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。						
学びの場	月曜日から金曜日 12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
2	基礎技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。
3	基礎技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
4	基礎技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
5	基礎技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
6	基礎技術の学習 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
7	基礎技術の学習 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
8	基礎技術の学習 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
10	基礎技術の学習 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。

11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 試験曲を決定し、正確な読譜を進める。
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の正確な読譜。
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。

29 演奏表現 9

練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。
バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。
試験曲の楽曲分析と演奏法。

30 演奏表現 10

練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。
バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。
試験曲の楽曲分析と演奏法。

科目名	管楽Ⅰ（主科）			講義コード	C110712007	担当教員	南川 肇
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	【授業の目的・ねらい】 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 【授業全体の内容の概要】 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 【授業終了時の達成課題】 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 【履修カルテの評価項目】 ①管楽器演奏テクニックの問題点をある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できましたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできていますか。						
受講資格	短大音楽科1年生			成績評価方法	実技試験90% 平常点10%		
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。						
参考書	『ソノリテについて』タファネルゴーベール 『32のエチュード』ローズ他						
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。						
オフィス	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	基礎練習①	支えと音の方向性について
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置
4	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて②	低音域のポジション
6	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて③	高音域のポジション
7	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング
9	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係
10	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係
11	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑧	fの出し方
12	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑨	Pの出し方
13	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑫	前期のまとめ
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度

19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏及び評価

科目名	管楽Ⅰ（主科）			講義コード	C110712014	担当教員	柳沼 和幸
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	〔授業の目的・ねらい〕 金管楽器の演奏に関わる基礎、レパートリー等について幅広く学び、演奏能力を向上させる 〔授業全体の内容の概要〕 金管楽器の基礎奏法、さらにその展開をもとに作品等を幅広く学び見識を深める。ソロ・アンサンブル・オーケストラ等の表現方法を様々な視点から捉え、演奏に反映させる 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 演奏法に関わる基礎および、プロフェッショナルな音楽性と演奏技術を習得する。						
受講資格	音楽科 1 年生			成績評価方法	①①出席及びレッスン受講態度(20点) ②期末実技試験（80点）		
教科書	J. Arban金管教本、 Kopprasch / 60のエチュード H. L. Clark / Technical Studies						
参考書	特になし						
学生への要望	資料収集に対する自主性、研究態度を重視する。週1回の実技レッスン授業に対して十分に準備しておくこと。						
オフィスタイム	月曜日 授業終了後						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス	実技レッスンの進め方や評価方法などを理解する。 レッスンを受講するにあたり必要となる教則本や日常練習の必要性を認識する。
2	呼吸法	腹式呼吸の構造と重要性を理解し、A. ジェイコブス氏の呼吸法を解説する。
3	マウスピースの練習	マウスピース練習の仕方を習得し、ウォーミングアップの必要性を理解する。
4	リップスラー I	基礎的なリップスラー及び、金管楽器におけるリップスラーの必要性と重要性を理解する。
5	リップスラー II	オクターヴ以上のリップスラーを習得し、より柔軟かつパテ強い口輪筋を育てる。
6	音階練習 I	以下の長音階の運指構造を理解し、楽器の基本構造を理解する。(B-dur, F-dur, Es-dur)
7	リップスラー III	2オクターヴ・リップスラーの練習内容を理解・習得する。
8	音階練習 II	以下の長音階の運指構造を理解し、美しい響きを理解する。(C-dur, As-dur, G-dur, Des-dur, D-dur, Ges-dur)
9	J. Arban 教本 I	当該教本より、No. 11～No. 50基礎的な響きと癖の無いソング奏法を理解する。
10	音階練習 III	以下の長音階の運指構造を理解し、美しいソングと響きを理解・習得する。(H-dur, A-dur, Fis-dur, E-dur)
11	音階練習のまとめと応用	全ての12長音階を早いソングで演奏し、より安定したシラブルを習得する。
12	J. Arban 教本 II	当該教本のシグネチャーNo. 1～12で強弱表現の幅を広げ、正確な音程感を理解する
13	Kopprasch 教本 I	当該教本を用いて、より音楽的な内容と技巧的な内容を習得する
14	H.L. Clark Technical Studies I	当該教本の練習方法解説と、日々の練習へ理解・導入する。
15	任意の小品曲	5～7分の小品を用いて、前授業内容の総合習得を確認する。

16	音階練習Ⅳ	以下の短音階の運指構造を理解し、美しい響きと安定感を習得する (g=moII, d=moII, c=moII, f=moII, a=moII, b=moII, e=moII, es=moII, h=moII)
17	J. Arban教本Ⅲ	当該教本内スラーとリフトにて、応用した高度なリップスラーの習得と技術向上をはかる。
18	J. Arban教本Ⅳ	当該教本内・音階にて技術と安定感を育成・習得する。
19	J. Arban教本Ⅴ	当該教本内・トリプルタンギングの構造と練習方法を解説し、理解・習得する。
20	Kopprasch教本Ⅱ	当該教本にてインターバルに対応できる高度な能力を習得する。
21	J. Arban教本Ⅵ	当該教本内ダブルタンギングの構造と練習方法を解説し、理解・習得する。
22	H. L. Clark Technical StudiesⅡ	当該教本No. 87~98にて、高度な技術・高音域の拡大と同時に、奏法の安定を養う。
23	J. Arban教本Ⅶ	当該教本内14の性格的練習曲を解説し、理解・習得する。
24	J. Arban教本Ⅷ	当該教本内12の幻想曲とアリアより任意の一曲を選択し、美しいテーマと高度な技術を応用した変奏曲を習得する。
25	フランス近代 小品	数多あるフランス近代作曲家の任意の小品を選曲し、技術的および音楽性の向上を深め、習得する。
26	バロック音楽	テレマン、タルティーニなどの小品を用いてバロック奏法の解説をし、理解を深める。
27	現代音楽	武満徹、リゲティなどの楽曲を用いて、現代奏法の理解・習得する。
28	ドイツ古典	J. ハイドン（もしくはJ. フンメル）トランペット協奏曲の構成研究、および曲想の理解などを深め、体得する。
29	オーケストラディ	数多あるオーケストラ曲内に存在する、難易度の高いパッセージへの練習アプローチと習得方法を解説、理解する。
30	実技試験準備	実技試験曲のピアノ伴奏合わせにおいて準備方法、音の色彩の引き出し方の提案、全体構成の方向性を習得する。

科目名	管案Ⅰ（主科）			講義コード	C110712013	担当教員	太田 涼平
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード・古典～現代の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。						
受講資格	音楽科 1 年生			成績評価方法	平常点 1 0 % 試験 9 0 %		
教科書	音及び基本奏法に関する教本を併用して使用する。						
参考書	特になし						
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。						
オフィス	月曜日 音楽科No.1 研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	基礎練習	支えと音の方向性について
2	基礎練習	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習	演奏時の舌の位置
4	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	低音域のポジション
6	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	高音域のポジション
7	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” のど ” のチューニング
9	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” 頭声 ” と楽器の音の関係
10	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	” 胸声 ” と楽器の音の関係
11	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	f の出し方
12	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	p の出し方
13	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習 小テスト及び前期試験に向けて	前期のまとめ
16	基礎練習 後期試験に向けて	” 弦楽器 ” に学ぶ意味
17	基礎練習 後期試験に向けて	ボウイングの up と down を取り入れる
18	基礎練習 後期試験に向けて	弓の速度と息の速度
19	基礎練習 後期試験に向けて	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習 後期試験に向けて	タンギングと弓使い

21	基礎練習	後期試験に向けて	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習	後期試験に向けて	フランス風toneについて
23	基礎練習	後期試験に向けて	ドイツ風toneについて
24	基礎練習	後期試験に向けて	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習	後期試験に向けて	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習	後期試験に向けて	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習	後期試験に向けて	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習	後期試験に向けて	暗譜の確認
29	基礎練習	後期試験に向けて	暗譜の確認
30	基礎練習	後期試験に向けて	演奏及び評価

科目名	管楽Ⅱ（主科）			講義コード	G210712008	担当教員	南川 肇, 穂苅 由美子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	〔授業の目的・ねらい〕 奏法に於ける重要なポイントを身に付け安定した演奏を可能にして試験に臨む。 〔授業全体の内容の概要〕 エチュード、古典の作品を通して、奏法及び曲の解釈を学ぶ。 〔授業修了時の達成課題〕 適切な楽曲解釈と奏法によって、自分の表現が自由にできるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①管楽器演奏テクニックの問題点をある程度把握し演奏技術の訓練に生かす事ができていますか。 ②楽曲を通してその奏法をある程度理解できましたか。 ③ピアノ伴奏者とのアンサンブルが良くできていますか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	実技試験 90% 平常点 10%		
教科書	音及び基本奏法に関する教本をレパートリーと併用して使用する。						
参考書	『ソノリテについて』ケーラー 『30のカプリス』カヴァリーニ他						
学生への要望	練習時間を確保し、忍耐を忘れず知的練習を重ねること。						
オフィス	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	基礎練習①	支えと音の方向性について
2	基礎練習②	ソルフェージュの重要性
3	基礎練習③	演奏時の舌の位置
4	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて①	身体ポジションとそれに連動するアンブシュア
5	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて②	低音域のポジション
6	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて③	高音域のポジション
7	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて④	“声楽”に学ぶ意味
8	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑤	“のど”のチューニング
9	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑥	“頭声”と楽器の音の関係
10	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑦	“胸声”と楽器の音の関係
11	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑧	fの出し方
12	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑨	Pの出し方
13	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑩	クレッシェンド・ディミヌエンドの方法
14	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑪	ことばを発音するが如く吹くには
15	基礎練習、小テスト及び前期試験に向けて⑫	前期のまとめ
16	基礎練習、後期試験に向けて①	“弦楽器”に学ぶ意味
17	基礎練習、後期試験に向けて②	ボウイングのupとdownを取り入れる
18	基礎練習、後期試験に向けて③	弓の速度と息の速度

19	基礎練習、後期試験に向けて④	弦楽器のヴィブラートに学ぶ
20	基礎練習、後期試験に向けて⑤	タンキングと弓使い
21	基礎練習、後期試験に向けて⑥	アーティキュレーションを立体的に表現するには
22	基礎練習、後期試験に向けて⑦	フランス風toneについて
23	基礎練習、後期試験に向けて⑧	ドイツ風toneについて
24	基礎練習、後期試験に向けて⑨	ピアノあるいは他楽器との協和性を得るには
25	基礎練習、後期試験に向けて⑩	後期試験に向けて最終チェック
26	基礎練習、後期試験に向けて⑪	後期試験に向けて最終チェック
27	基礎練習、後期試験に向けて⑫	後期試験に向けて最終チェック
28	基礎練習、後期試験に向けて⑬	暗譜の確認
29	基礎練習、後期試験に向けて⑭	暗譜の確認
30	基礎練習、後期試験に向けて⑮	演奏と評価

科目名	伴奏法			講義コード	C210712012	担当教員	深谷 登喜子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	選択	単位数	2
授業目標	【授業の目的・ねらい】 伴奏の役割を学び、アンサンブルの重要性の基本を学ぶ 【授業全体の内容の概要】 歌曲、合唱曲などの伴奏を中心として呼吸、バランス等を学修する。教職必修科目でもあるので、中学校教材の中から、また音楽療法の実習もふまえて選曲をしていく。簡単なコードネームによる伴奏付けも学ぶ。 【授業修了時の達成課題】 伴奏の役割の大切さを理解する。コードネームによる伴奏を実践できるようにする。 【履修カルテの評価項目】 ①授業毎の課題を消化できるか。 ②歌詞の意味を理解できるか。 ③自分で考えて演奏をしているか。						
受講資格	短大音楽科2年				成績評価方法	実技試験80点、平常点20点	
教科書	特になし						
参考書	中学校教科書（音楽）、その他。						
学生への要望	実技を伴う授業なので、課題の練習をすること。音楽のセンスを養ってほしい。						
オフィス	月～金曜日12:00～12:50 No.1 音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	導入	年間の授業計画を説明し、伴奏の役割の大切さを認識させる。次の授業の課題を出す。
2	滝廉太郎作曲「花」の演習 1	前回の授業で出した課題「花」を弾かせる。曲全体の注意点を説明し、学生それぞれに適切なアドバイスを与える。詩の解釈をする。
3	滝廉太郎作曲「花」の演習 2	前回は引き続き「花」を演習する。ある程度弾ける様になった学生は終了させる。8割以上の学生が弾けるようになったことを確認し、次の課題を与える。
4	滝廉太郎作曲「花」3、中田章作曲「早春賦」の演習 1	「花」が合格していない学生は引き続き学習させる。他の学生には中田章作曲「早春賦」を演習させる。
5	中田章作曲「早春賦」の演習 2	「花」を全員終了したことを確認し、「早春賦」の解釈と注意点を説明する。その後演習させる。
6	中田章作曲「早春賦」の演習 3	先週に引き続き注意を与えながら演習をさせる。
7	中田章作曲「早春賦」の演習 4	「早春賦」を先週に引き続き演習させる。学生それぞれに、アドバイスを与えながら弾かせる。終了した学生には次の課題、中田喜直作曲「夏の思い出」を与える。
8	中田章作曲「早春賦」5、中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 1	「早春賦」を全員終了したことを確認し、「夏の思い出」の詩の解釈、曲の解釈、注意点を与える。
9	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 2	「夏の思い出」を演習させる。それぞれに適切な注意、アドバイスを与える。次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」を与える。
10	中田喜直作曲「夏の思い出」の演習 3	日本歌曲についての解説と演習。
11	中田喜直作曲「夏の思い出4」、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 1	「夏の思い出」を全員が終了したことを確認し、次の課題、成田為三作曲「浜辺の歌」の演習をする。曲の解説、伴奏をする上での注意点を説明する。
12	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 2	「浜辺の歌」の演習をさせる。学生各自に適切なアドバイスをしながら、授業を進める。
13	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 3	前回は引き続き「浜辺の歌」の演習をする。2週間後に行う小テストについての説明と、課題を与える。課題はこの時点での学生のレベルを考慮し、2～3曲を提示する。

14	成田為三作曲「浜辺の歌」の演習 4	前回に引き続き演習を進める。
15	成田為三作曲「浜辺の歌」 5	夏期休業中の課題「郡山女子大学校歌」を出す。
16	校歌（深尾須磨子作詞、一宮道子作曲）の演習 1	郡山女子大学の「校歌」の歌詞の解釈、演奏の注意点を考えさせて、演習をする。
17	「校歌」の演習 2	前回に引き続き校歌の演習を継続する。
18	「校歌」の演習 3、山田耕筰作曲「赤とんぼ」の演習 1	校歌が終了した学生は「赤とんぼ」の演習に入る。歌詞、曲の解釈を考えさせて、演奏の注意点を説明する。
19	「校歌」4、「赤とんぼ」の演習 2。簡単な旋律に伴奏をつける学習 1	前回に引き続き「校歌」、「赤とんぼ」を演習させる。簡単な旋律に伴奏をつけることを学修する。
20	「校歌」5、「赤とんぼ」3の演習、伴奏付け 2	「校歌」をほぼ全員終了したことを確認し、「赤とんぼ」を演習させる。授業の後半で、簡単な伴奏付けを行う。
21	「赤とんぼ」の演習 4、中田喜直作曲「雪の降る街を」の演習 1、伴奏付け 3	「赤とんぼ」を終了した学生には、次の課題として中田喜直作曲「雪の降る街を」を与える。簡単な伴奏付けを行う。
22	「雪の降る街を」の演習 2、伴奏付け 4	「雪の降る街を」の歌詞の解釈、伴奏をする上での注意点等を考えさせ、説明を加える。その後、演習に入る。伴奏付けは少しずつ移調も試みる。
23	「雪の降る街を」の演習 3、伴奏付け 5	前回に引き続き「雪の降る街を」を学生各自にアドヴァイスをしながら、授業を進める。伴奏付けは移調ができるように、考えさせる。
24	「雪の降る街を」の演習 4、伴奏付け 6	「雪の降る街を」をほぼ全員終了したことを確認する。伴奏付けはなるべく多くの課題を実践させる。
25	簡単な童謡の演習 1、伴奏付け 7	体や指を使って、歌いながらできる童謡や歌を学修する。伴奏付けは引き続き多くの課題をこなすようにする。
26	簡単な童謡の演習 2、伴奏付け 8	前回に引き続き、童謡の伴奏を弾くことを継続させる。伴奏付けも多様な形式の課題をとにかく多く演習させる。
27	童謡 3、伴奏付け 9	聞いたことはあるが弾いた事はない曲、新しい曲等を選んで演習させる。伴奏付けは引き続き行う。
28	童謡の演習 4、伴奏付け 10	前回に同じく、継続して演習をさせる。卒業試験の演奏（伴奏）についての質問、あるいは実際に演奏をさせて指導をする時間を取る。
29	授業の理解の確認	1年間の授業の感想、反省、意見などを聞く。まとめの課題を出す。
30	授業のまとめ	1年間の確認とまとめ

科目名	ソルフェージュⅠ			講義コード	C110712012	担当教員	横溝 聡子, 南川 肇
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	【授業の目的・ねらい】 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 【授業全体の内容の概略】 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。 【授業修了時の達成課題】 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができましたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができましたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになりましたか。						
受講資格	短大音楽科1年生			成績評価方法	学期末テスト80点、平常点20点		
教科書	特になし						
参考書	特になし						
学生への要望	日頃より楽譜をよく読むこと。 授業で出題された問題をよく復習しておく。						
ワイタイム	月曜日から金曜日 12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成のためのテスト
2	ソルフェージュの基礎 1	4 小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
3	ソルフェージュの基礎 2	4 小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
4	ソルフェージュの基礎 3	4 小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
5	聴音ステップ 1 ①	リズム、8 小節の単旋律聴音を行なう。
6	聴音ステップ 1 ②	リズム、8 小節の単旋律聴音を行なう。
7	聴音ステップ 1 ③	リズム、8 小節のやや複雑な単旋律聴音と 2 声聴音を行なう。
8	聴音と新曲視唱 1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
9	聴音と新曲視唱 2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるので、 新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。
11	聴音ステップ 2 ①	リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
12	聴音ステップ 2 ②	リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
13	聴音ステップ 2 ③	リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
14	聴音ステップ 2 ④	リズム、単旋律、2 声、4 声体の聴音を行なう。
15	聴音ステップ 2 ⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2 声、4 声体）と解説。
16	聴音ステップ 3 ①	やや複雑なリズム、単旋律、2 声の聴音を行う。

17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
20	演習 1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
21	演習 2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
22	演習 3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
23	演習 4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
24	演習 5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
25	演習 6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
26	演習 7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
27	演習 8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
28	演習 9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
29	演習 10	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
30	演習 11	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2声、4声体）と解説。

科目名	ソルフェージュⅡ			講義コード	G210712016	担当教員	横溝 聡子, 南川 肇
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	【授業の目的・ねらい】 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 【授業全体の内容の概略】 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。 【授業修了時の達成課題】 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。 【履修カルテ評価項目】 ①リズム、単旋律聴音に於いて出題された課題の80%を聴き取る事ができましたか。 ②和声、複旋律の聴音を聴き分ける事ができましたか。 ③正しい音程やリズムで歌えるようになりましたか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	学期末テスト80点、平常点20点		
教科書	特になし						
参考書	特になし						
学生への要望	日頃より楽譜をよく読むこと。 授業で出題された問題をよく復習しておく。						
ワイスタイム	月曜日から金曜日 12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト
2	ソルフェージュの基礎1	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
3	ソルフェージュの基礎2	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
4	ソルフェージュの基礎3	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。
5	聴音ステップ1①	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
6	聴音ステップ1②	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。
7	聴音ステップ1③	リズム、8小節のやや複雑な単旋律聴音と2声聴音を行なう。
8	聴音と新曲視唱1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
9	聴音と新曲視唱2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるの、 新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。
11	聴音ステップ2①	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
12	聴音ステップ2②	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
13	聴音ステップ2③	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
14	聴音ステップ2④	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
15	聴音ステップ2⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2声、4声体）と解説。
16	聴音ステップ3①	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。

17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。
20	演習 1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
21	演習 2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
22	演習 3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
23	演習 4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
24	演習 5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
25	演習 6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
26	演習 7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
27	演習 8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
28	演習 9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
29	演習 10	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。
30	演習 11	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2声、4声体）と解説。

科目名	合唱Ⅰ			講義コード	C110712004	担当教員	岡部 富士夫, 深谷 登喜子, 磯部 哲夫
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であるという責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 この授業は一、二年合同で行います。定期演奏会のための練習その他を行います・ 「授業修了時の到達目標」 合唱の楽しみを知り、将来に役立つ音楽性を身につけます。 【履修カルテ評価項目】 ①自分のパートを正しく歌えているか。 ②曲の意味を理解して歌っているか。 ③他のパートと協調し美しいアンサンブルが出来ているか。						
受講資格	音楽科一年			成績評価方法	実技試験 80%、平常点 20%		
教科書	合唱作品						
参考書	なし						
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。						
ワキタム	火、水曜日10:30~14:20 音楽科第三研究室						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	合唱音楽への導入	合唱音楽への導入として簡単な楽曲を取り上げ、合唱のハーモニーの豊かさを実感する。一年生はパーと決めを行う。
2	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他 ①	オープンキャンパスのための練習。
3	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他 ②	声質の統一、音程、音質など細かい部分に注意しながら曲の持つ繊細な美しさを表現。パートごとの譜読みを行う。
4	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他 ③	曲の持つ響きの豊かさ情感を味わいながら合わせの練習。
5	浜辺の歌、里の秋、荒城の月、椰子の実、その他 ④。並行して定期演奏会の演奏曲目についての準備。	譜読み、合わせ。
6	定期演奏会の演奏曲目についての準備	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。
7	定期演奏会の演奏曲目の練習①	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習、第1、終曲も復習しておく。
8	定期演奏会の演奏曲目の練習②	まとめ。音程、テンポ、表現などの確認。
9	定期演奏会の演奏曲目の練習③	曲の抒情感、リズム感を感じながらうたう。
10	定期演奏会の演奏曲目の練習④	合わせ。リズムに乗り歌う。前3曲も合わせて練習する。
11	定期演奏会の演奏曲目の練習⑤	譜読み、合わせ。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。
12	定期演奏会の演奏曲目の練習⑥	譜読み、合わせ。ゆっくりとした曲だが情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。前曲の復習。
13	定期演奏会の演奏曲目の練習⑦	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。
14	定期演奏会の演奏曲目の練習⑧	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。これまでの復習。

15	全曲。定期演奏会の練習⑨	全曲の仕上げをする。 定演の練習。
16	定期演奏会の練習⑩	定演のための練習を行う。
17	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
18	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
19	定期演奏会の練習	定演のための練習を行う。
20	ポリフォニー①	パレストリーナなどの中世の合唱曲や合唱の原点である西洋の宗教曲に触れることにより合唱の響きを味わう。
21	ポリフォニー②	合唱の原点である中世の宗教曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを知る。
22	ポリフォニー③	アベ・マリア、アヴェ・ヴェルム・コルプス、など西洋の合唱音楽に触れる。
23	世界の合唱音楽①	モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなど古典の名曲に触れることによりより深く合唱の響きを知る。
24	世界の合唱音楽②	前週の続き。モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなどの合唱曲。
25	世界の合唱音楽③	前週の続き。シューベルトなどその他の名曲に触れる。
26	日本の合唱音楽①	日本には優れた合唱曲が数多くある。それらを歌うことにより日本語の美しさを味わう。 三善晃、中田喜直、湯山昭その他。
27	日本の合唱音楽②	前週の続き。音楽の内容を更に深める。
28	日本の合唱音楽③	前週に引き続き音楽を深める。その他の名曲も紹介する。
29	合唱の喜びのまとめ	合唱音楽のさまざまな時代、様式などを踏まえながら合唱の喜びを深める。
30	合唱の喜びのまとめと試験	アンサンブルによる試験。3、4名ずつのグループを作り、室内合唱としてのアンサンブルを経験する。

科目名	合唱Ⅱ			講義コード	G210712006	担当教員	岡部 富士夫, 深谷 登喜子, 磯部 哲夫	
対象	2 年	開講期	通年	必・選	選択	単位数	2	
授業目標	「授業の目的・ねらい」 合唱の一員であるという責任感の基、音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌うことにより品位ある合唱の響きを追求する授業です。 「授業全体の内容の概要」 授業は一、二年合同で行います。一年次での基礎を踏まえ合唱作品の名曲に触れます。 「授業修了時の達成度」 合唱音楽を通して将来に役立つ音楽性を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①音程リズムを正確に歌う事が出来るか。 ②他と協調し、アンサンブルがスムーズにできるか。 ③楽曲を正しく理解しているか。							
受講資格	音楽科二年			成績評価方法	実技試験 80%、平常点 20%			
教科書	合唱作品							
参考書	なし							
学生への要望	合唱の一員であるという責任と自覚を持って臨んで下さい。							
ワイルドタイム	火、水曜日10:30～14:20 音楽科第三研究室							

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	合唱音楽への導入	合唱音楽への導入として簡単な楽曲を取り上げ、合唱のハーモニーの豊かさを実感する。一年生はパートを決める。
2	オープンキャンパスの演奏曲①	オープンキャンパスでは授業の一環として合唱を演奏する。曲目は浜辺の歌など4曲。(一年のシラバス参照)
3	オープンキャンパスの演奏曲②	声質の統一、音程、音質など細かい部分に注意しながら曲の持つ繊細な美しさを表現。パートごとの譜読みを行う。
4	オープンキャンパスの演奏曲③	曲の持つ響きの豊かさ情感を味わいながら合わせの練習。
5	オープンキャンパスの演奏曲④ 並行して定期演奏会の演奏曲	譜読み、合わせ。
6	定期演奏会の演奏曲①	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。
7	定期演奏会の演奏曲②	譜読み。音程、テンポなど難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習、第1、終曲も復習しておく。
8	定期演奏会の演奏曲③	まとめ。音程、テンポ、表現などの確認。
9	定期演奏会の演奏曲④	譜読み、リズム感を感じながらうたう。
10	定期演奏会の演奏曲⑤	合わせ。リズムに乗り歌う。前曲も合わせて練習する。
11	定期演奏会の演奏曲⑥	譜読み、合わせ。情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。
12	定期演奏会の演奏曲⑦	譜読み、合わせ。情感豊かに歌いたい。伴奏と合唱のアンサンブルも大事に。前曲の復習。
13	定期演奏会の演奏曲⑧	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。
14	定期演奏会の演奏曲⑨	拍子の難しい曲である。丁寧に譜読みをする。合わせの練習を行い、言葉を大切に拍子感を感じながら歌う。これまでの復習。

15	定期演奏会の演奏曲全曲⑩	全曲の仕上げをする。 定演の練習。
16	定期演奏会の練習⑪	定演のための練習を行う。
17	定期演奏会の練習⑫	定演のための練習を行う。
18	定期演奏会の練習⑬	定演のための練習を行う。
19	定期演奏会の練習⑭	定演のための練習を行う。
20	ポリフォニー①	パレストリーナなどの中世の合唱曲や合唱の原点である西洋の宗教曲に触れることにより合唱の響きを味わう。
21	ポリフォニー②	合唱の原点である中世の宗教曲を歌うことにより、合唱の素晴らしさを知る。
22	ポリフォニー③	アベ・マリア、アヴェ・ヴェルム・コルプス、など西洋の合唱音楽に触れる。
23	世界の合唱音楽①	モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなど古典の名曲に触れることによりより深く合唱の響きを知る。
24	世界の合唱音楽②	前週の続き。モーツァルト、グノー、メンデルスゾーンなどの合唱曲。
25	世界の合唱音楽③	前週の続き。シューベルトなどその他の名曲に触れる。
26	日本の合唱音楽①	日本には優れた合唱曲が数多くある。それらを歌うことにより日本語の美しさを味わう。 三善晃、中田喜直、湯山昭その他。
27	日本の合唱音楽②	前週の続き。音楽の内容を更に深める。
28	日本の合唱音楽③	前週に引き続き音楽を深める。その他の名曲も紹介する。
29	合唱の喜びのまとめ	合唱音楽のさまざまな時代、様式などを踏まえながら合唱の喜びを深める。
30	合唱の喜びとのまとめと試験	アンサンブルによる試験。3、4名ずつのグループを作り、室内合唱としてのアンサンブルを経験する。

科目名	合奏Ⅰ			講義コード	C110712011	担当教員	岡部 富士夫、増子 仁保、穂苅 由美子、 南川 肇、小枝 泉
対象	1 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	4
授業目標	「授業の目的・ねらい」 高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行います。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演します。 「授業全体の内容の概要」 Ⅰ、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学びます。 「授業修了時の到達度」 合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにします。 【履修カルテ評価項目】 ①基本的楽器の奏法をマスターしているか ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか						
受講資格	音楽科一年			成績評価方法	実技試験８０％、常点２０％		
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。						
参考書	なし						
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組んで下さい。						
ワイルタイム	火、水曜日10:30～14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者には楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
2	創立記念式典の練習②	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
3	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者には各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
4	定期演奏会の演奏曲②	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたブレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
5	定期演奏会の演奏曲③	パート、セクションの続き。特に序奏部分は音楽的に難しく、弦のアンサンブル、管のソロ部分に難所が多いので、集中的に練習したい。
6	定期演奏会の演奏曲④	序奏部分のパート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
7	定期演奏会の演奏曲⑤	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れ
8	定期演奏会の演奏曲⑥	終結部の練習。この部分は非常に速く、技術的に困難な場所なので、ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わ
9	定期演奏会の演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。

10	定期演奏会の演奏曲⑧	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。
11	定期演奏会の演奏曲⑨	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
12	定期演奏会の演奏曲⑩	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
13	定期演奏会の演奏曲⑪	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
14	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
15	シューベルト「ロザムンデ」他②	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。
16	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
17	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
18	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
19	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコーラル「すべての宝にまさる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
20	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
21	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
22	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他④	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
23	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他⑤	前週の続き。コーラル以外の奏楽曲について練習。
24	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
25	オーケストラの響き②	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
26	オーケストラの響き③	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
27	オーケストラの響き④	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
28	コーラルその他①	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
29	コーラルその他②	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
30	コーラルその他③	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。

科目名	合奏Ⅱ			講義コード	G210712015	担当教員	岡部 富士夫, 増子 仁保, 穂苅 由美子, 南川 肇, 小枝 泉
対象	2 年	開講期	通年	必・選	選択	単位数	4
授業目標	「授業の目的・ねらい」 Ⅰ、Ⅱ期に学習した基礎の上に立って、Ⅲ、Ⅳ期は創立記念式典、高校の定期演奏会、卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学びます。 「授業全体の内容の概要」 実際の楽曲を練習、演奏する事によりアンサンブルの能力を深化させます。また個人の技術を磨きます。 「授業終了時の到達度」 アンサンブル能力を高めることにより将来の音楽活動に役立てるノウハウを身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①基本楽器の奏法をマスターしているか。 ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか。 ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか。						
受講資格	音楽科二年			成績評価方法	実技試験 80%、平常点 20%		
教科書	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。						
参考書	なし						
学生への要望	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組んで下さい。						
オフィス	火、水曜日10:30~14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者は楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。
2	創立記念式典の練習②	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。
3	定期演奏会演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回目は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者は各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。
4	定期演奏会演奏曲②	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれて、管、弦それぞれ分奏を行う。技術に応じたプレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。
5	定期演奏会演奏曲③	パート、セクションの続き。特に序奏部分は音楽的に難しく、弦のアンサンブル、管のソロ部分に難所が多いので、集中的に練習したい。
6	定期演奏会演奏曲④	序奏部分のパート、セクション練習。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかり弾けるように反復して練習する。
7	定期演奏会演奏曲⑤	パート、セクションごとにしっかり弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れ
8	定期演奏会演奏曲⑥	終結部の練習。この部分は非常に速く、技術的に困難な場所なので、ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わ
9	定期演奏会演奏曲⑦	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。1年生は合奏組と基礎練習組に分かれて練習する。
10	定期演奏会演奏曲⑧	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。

11	定期演奏会演奏曲⑨	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。
12	定期演奏会演奏曲⑩	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。
13	定期演奏会演奏曲⑪	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。
14	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。
15	シューベルト「ロザムンデ」他②	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進捗によって調整。
16	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
17	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
18	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。
19	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコーラル「すべての宝にまさる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。
20	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他②	前週の続き。弦、管のパート練習。
21	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他③	前週の続き。弦、管のパート練習。
22	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他④	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。
23	コーラル「すべての宝にまさる宝」その他⑤	前週の続き。タンホイザー以外の奏楽曲について練習。
24	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。
25	オーケストラの響き②	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。
26	オーケストラの響き③	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。
27	オーケストラの響き④	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。
28	コーラルその他①	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。
29	コーラルその他②	再び卒業式の奏楽の練習。仕上げ。これを3週にわたって行う。前週の続き。
30	コーラルその他	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。

科目名	アンサンブル			講義コード	C210712014	担当教員	南川 肇
対象	2 年	開講期	通年	必・選	選択	単位数	2
授業目標	〔授業の目的・ねらい〕 アンサンブルの演奏方法、コミュニケーションの取り方、練習方法などのテクニックを身につける。 〔授業全体の内容の概要〕 様々な編成の室内楽を、個々のレベルに合わせ演奏する。 〔授業修了時の達成課題〕 アンサンブルのテクニックを身につけ、様々な編成の室内楽の演奏法ができるようになる。 〔履修カルテの評価項目〕 ①室内楽の演奏方法を理解できたか。 ②他の声部をよく理解し、それに合わせた演奏ができたか。 ③他の奏者に、方向性を示すことができたか。						
受講資格	音楽科 2 年生			成績評価方法	実技試験 90%、平常点 10%		
教科書	個々のレベルにあった、アンサンブル曲。						
参考書	無し						
学生への要望	室内楽の奏法を身につけ、音楽一般の演奏力を伸ばしてもらいたい。						
オフィス仏	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明
2	基本練習①	ブレス、アインザッツの重要性と方法。
3	基本練習②	ブレス、アインザッツの重要性と方法。
4	基本練習③	テンポ設定と音楽表現。
5	基本練習④	テンポ設定と音楽表現。
6	実践①	個々のレベルと編成にあった選曲。
7	実践②	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。
8	実践③	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
9	実践④	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
10	実践⑤	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
11	実践⑥	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
12	実践⑦	曲の分析とその表現方法。
13	実践⑧	曲の分析とその表現方法。
14	実践⑨	発表に向けての準備。
15	発表	授業の成果発表。及び評価。
16	実践⑩	個々のレベルと編成にあった選曲。
17	実践⑪	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。

18	実践⑫	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
19	実践⑬	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
20	実践⑭	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
21	実践⑮	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
22	実践⑯	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
23	実践⑰	個々のレベルと編成にあった選曲。
24	実践⑱	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
25	実践⑲	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
26	実践⑳	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
27	実践Ⅱ	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
28	実践Ⅲ	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
29	実践Ⅳ	個々のレベルと編成にあった選曲による演奏。他のパートとの関わりと、和声感。
30	発表	研究成果の発表。及び評価。

科目名	音楽鑑賞			講義コード	C110712001	担当教員	岡部 富士夫
対象	1 年	開講期	通年	必・選	選択	単位数	4
授業目標	「授業の目的・ねらい」 CD、LD、DVD、ビデオなどのソフトを用い、さまざまな音楽に触れることにより、古典から現代までのクラシック音楽の本質について学ぶ。 「授業全体の内容の概要」 音楽鑑賞は古今の名曲を鑑賞するにとどまらず、作曲家の個性、時代背景、時代様式などを知ることにより、音楽が如何に社会と密接に関わってきたかを知る。 「授業修了時の到達目標」 音楽史を正しく理解し、音楽の意味について深く理解する。 【履修カルテの評価項目】 ①時代性、様式について理解できているかどうか。 ②音楽史の流れを正しく理解できているかどうか。 ③美しいものを感じ取る感性が育っているかどうか。						
受講資格	音楽科 1 年、生涯学習生			成績評価方法	レポート80%、平常点20%		
教科書	無し						
参考書	無し						
学生への要望	意欲を持って豊富な知識を身につけ、自由な感性を育てて欲し						
ワキタイム	火、水曜日10:30～14:20 音楽科第三研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション	音楽鑑賞は単に名曲を聴く、という事だけではない。音楽を鑑賞する真の意味について考える。 また、聴くポイントやそこから何を学び取るか、について考える。
2	ヤング・ピープルズ・コンサート1	ヤング・ピープルズ・コンサートは20世紀最大の作曲家・指揮者であったレナード・バーンスタインが自らライフワークと位置付け、25回、15年に亘ってテレビ放映した青少年のための音楽教室である。第一回は「音楽って何？」我々が如何に間違った聴き方をしているか分かりやすく説いている。
3	第二回アメリカ音楽って何？	アメリカのクラシック音楽がアメリカの独自性を発揮するまでの歴史について述べているがヨーロッパのものであった音楽がアメリカに定着するまでの変遷や苦悩を知ることによって実は日本のクラシック音楽がどうあるべきかということについて考える礎とした
4	第三回オーケストレーションって何？	ある音楽をオーケストラで演奏するにはどうアレンジすればいいのかが、数ある楽器の組み合わせの可能性や効果、楽器の処理の仕方、成功例や失敗例を見ながら学ぶ。
5	第四回交響楽はどのように作られる？	単純な旋律を元に、作曲家はあらゆる技法を駆使して組み合わせ、展開し、和音を変え、リズム、テンポを変えて音による立派な建造物を作り上げて行く。シンフォニックな響きはどのようにして作られて行くかを学ぶ。
6	第五回古典派音楽って何？	クラシック音楽には大きく分けてバロック、古典派、ロマン派、近代、現代など時代と共に発展した様式や国民学派など地域独自の発展を遂げた様々なスタイルがある。バッハ、ヘンデルなどのバロック時代からハイドンモーツァルトを経てベートーヴェンに至る古典派の音楽がどういうものであったか説明する。
7	第六回コンサート・ホールの中の民族音楽	言葉（言語）と音楽の関係、あらゆる音楽の根底には民謡やフォークダンスの音楽があることを証明する。 しゃべりのリズムやアクセントが音楽に影響を与え、さらに芸術音楽に発展する諸相について解説する。

8	第七回印象主義って何？	フランスのドビュッシーやラヴェルの音楽は特殊な音階や和音を使って神秘的な不思議な響きを作り出す。暗示は現実主義に勝りうるというフランスに生まれた考え方に基づくもので美術の世界で言えばモネやドガ、ルノアールの絵画にあたるもの。
9	第八回ソナタ形式って何？	ソナタ形式は音楽の中でも特に重要な形式で、多くの音楽はソナタ形式で作られている。しかしこれは実は簡単な歌の形式が大きく発展したものに過ぎない。ただソナタの場合音楽をよりドラマチックにするために作曲家は関係調の中を自由に動き回る。
10	第九回旋法って何？	私たちが愛する音楽の大部分は「旋法」と呼ばれる昔からある音階に基づいている。現在の長、短音階の元となったもので、教会旋法、ギリシャ旋法などがあるが、現在も旋法を用いた例は数多い。
11	第十回ベルリオーズの「幻想」	音楽はあくまで音自体が目的の建造物であって物語をなぞるものではない。しかしロマン派に至って標題音楽、つまり物語りや心象風景を音を手段として用い、表現する手法が発達した。ベルリオーズの「幻想」交響曲はその先駆と言われている。
12	第十一回オーケストラの響き	偉大なオーケストラはそれ独自の響きを持つべきではない。曲によって、作曲家によって時代によって意のままに変われる能力が良いオーケストラの条件と言える。それが無ければオーケストラはとんでもない罪を犯しかねない。
13	第十二回クイズ・コンサート	音楽の常識や鑑賞のポイントをクイズを通して解説する。作曲家の名前、国籍、時代、様式など鑑賞に必要な知識を持つことは大事なことである。
14	第十三回バレエの中の鳥たち	チャイコフスキー「白鳥の湖」ストラヴィンスキー「火の鳥」どちらも魅力にあふれた作品だがバレエが無く音楽だけでも十分楽しむことが出来る。
15	第十四回フィデリオ命の讃歌ー	フィデリオはベートーヴェンの唯一のオペラ。この音楽のあふれる魅力について考える。
16	オペラの楽しみ①	2週にわたってモーツァルト作曲、歌劇「ドン・ジョバンニ」を鑑賞。総合芸術としてのオペラは音楽のあらゆる要素が入っている。Ⅳ期はオペラを中心に鑑賞し、音楽の素晴らしさを知る。
17	オペラの楽しみ②	「ドン・ジョバンニ」の2回目。解説。
18	オペラの楽しみ③	プッチーニ作曲、歌劇「ラ・ボエーム」を2週にわたって鑑賞。イタリアオペラの代表的作曲家の他の作品についても解説する。
19	オペラの楽しみ④	「ラ・ボエーム」の2回目。解説。
20	オペラの楽しみ⑤	ヴェルディ作曲、歌劇「椿姫」を3週にわたって鑑賞。ヴェルディはプッチーニと並ぶイタリアオペラの大家。ヴェルディの他の作品についても解説。
21	オペラの楽しみ⑥	「椿姫」の2回目。
22	オペラの楽しみ⑦	「椿姫」の3回目。
23	オペラの楽しみ⑧	オペラの最高傑作の一つビゼー作曲、歌劇「カルメン」を2回にわたって鑑賞。
24	オペラの楽しみ⑨	「カルメン」の2回目。解説。
25	オペラの楽しみ⑩	ベートーヴェン作曲、歌劇「フィデリオ」を3週にわたって鑑賞。フィデリオはベートーヴェン唯一のオペラ。モーツァルト以来のドイツオペラの伝統について解説。
26	オペラの楽しみ⑪	「フィデリオ」の2回目。
27	オペラの楽しみ⑫	「フィデリオ」の3回目。
28	オペラの楽しみ⑬	ロッシーニ作曲、歌劇「セビリアの理髪師」を2回にわたって鑑賞。
29	オペラの楽しみ⑭	「セビリアの理髪師」の2回目。
30	鑑賞のまとめ	音楽鑑賞で学んだこと、音楽について知り得た事など討論形式をもって話し合う。

科目名	卒業研究			講義コード	G210712001	担当教員	深谷 登喜子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。 [授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	小論文40%、演奏60%にて評価		
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。						
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍						
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。						
学びの場	月曜日から金曜日12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	演奏研究1	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。

17	演奏研究 1 7	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究 1 8	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究 1 9	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究 2 0	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究 2 1	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究 2 2	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究 1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究 2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究 3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究 4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究 5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究 7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究 8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究			講義コード	G210712003	担当教員	磯部 哲夫
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を突らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	小論文40%、演奏60%にて評価		
教科書							
参考書							
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。						
ワイルド	月曜日から金曜日のお昼休み						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	演奏曲目を決定し、実際に楽譜を読み、楽曲の内容を把握し構成の研究をする。
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ研究を深める。
11	〃	〃
12	〃	楽曲の演奏を可能にし、楽曲の表現方法を研究する。
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃
16	〃	演奏する楽曲を楽理的に分析して楽曲構成を把握する。
17	〃	〃
18	〃	〃
19	〃	〃

20	〃	〃
21	〃	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	〃	〃
23	〃	卒業研究論文の作成に入る。
24	〃	担当教員と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	〃	〃
26	〃	〃
27	〃	〃
28	〃	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	〃	〃
30	〃	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究			講義コード	G210712004	担当教員	穂苅 由美子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を突らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	論文、演奏内容にて評価		
教科書							
参考書							
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。						
ワイスタム							

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	〃	〃
3	〃	〃
4	〃	〃
5	〃	〃
6	〃	〃
7	〃	演奏曲目を決定し、実際に楽譜を読み、楽曲の内容を把握し構成の研究をする。
8	〃	〃
9	〃	〃
10	〃	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ研究を深める。
11	〃	〃
12	〃	楽曲の演奏を可能にし、楽曲の表現方法を研究する。
13	〃	〃
14	〃	〃
15	〃	〃
16	〃	演奏する楽曲を楽理的に分析して楽曲構成を把握する。
17	〃	〃
18	〃	〃
19	〃	〃

20	"	"
21	"	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	"	"
23	"	卒業研究論文の作成に入る。
24	"	担当教員と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	"	"
26	"	"
27	"	"
28	"	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	"	"
30	"	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究			講義コード	G210712009	担当教員	南川 肇
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。 [授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	小論文40%、演奏60%にて評価		
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。						
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍						
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。						
ウェブサイト	No.1 音楽科研究室 火曜日から金曜日12:00~12:50						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	演奏研究 1	ピアノⅡ、声乐Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究 2	ピアノⅡ、声乐Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究 3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究 4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究 5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究 6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究 7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究 8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究 9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究 10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究 11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究 12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究 13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究 14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究 15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究 16	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	演奏研究 17	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。

18	演奏研究 1 8	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究 1 9	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究 2 0	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究 2 1	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究 2 2	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究 1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究 2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究 3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究 4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究 5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究 7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究 8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究			講義コード	G210712018	担当教員	横溝 聡子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上をはかる。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。 [授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲の深い理解のもと、自己の表現を修得する。 [履修カルテの評価項目] ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	小論文40%、演奏60%にて評価		
教科書	各自の進度の応じた教則本、曲集。						
参考書	音楽史、世界史等に関する書籍						
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。						
ワキタイム	月曜日から金曜日12:00~12:50 No.1音楽科研究室						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	演奏研究1	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	演奏研究2	ピアノⅡ、声楽Ⅱ、弦楽Ⅱ、管楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	演奏研究4	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	演奏研究5	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	演奏研究6	候補の曲の譜読みをする。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定する。
9	演奏研究9	演奏曲の譜読みを始める。
10	演奏研究10	演奏曲の譜読みを続ける。
11	演奏研究11	演奏曲の譜読みを続ける。
12	演奏研究12	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	演奏研究13	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	演奏研究14	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	演奏研究15	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	演奏研究16	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。

17	演奏研究 1 7	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	演奏研究 1 8	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	演奏研究 1 9	演奏の表現の方法を研究する。
20	演奏研究 2 0	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	演奏研究 2 1	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	演奏研究 2 2	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	作品研究 1	卒業研究小論文の作成に入る。
24	作品研究 2	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	作品研究 3	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	作品研究 4	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	作品研究 5	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	作品研究 7	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	作品研究 8	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	卒業研究			講義コード	G210712019	担当教員	割谷 由美子
対象	2 年	開講期	通年	必・選	必修	単位数	2
授業目標	各専攻コースにおいて、2年間の学習成果を実らせる意味から、学生各自の専門分野の研究を深め、演奏、能力の向上を図り総合的な音楽学習の基礎とする。 履修カルテの評価項目 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解しているかどうか。 ③音楽を感性という面からもとらえることができるかどうか。						
受講資格	短大音楽科2年生			成績評価方法	小論文40%、演奏60%にて評価		
教科書							
参考書							
学生への要望	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究されたい。						
ワイルド	月火 レッスン室No.1						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。
2	卒業研究	ピアノ2、声楽2、弦楽2、管楽2の授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。
3	卒業研究	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。
4	卒業研究	先週に引き続き、候補の曲の収集を行う。
5	卒業研究	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。
6	卒業研究	候補の曲の譜読みをする。
7	卒業研究	候補の曲の譜読みをする。
8	卒業研究	演奏曲目を決定する。
9	卒業研究	演奏曲の譜読みを始める。
10	卒業研究	演奏曲の譜読みを続ける。
11	卒業研究	演奏曲の譜読みを続ける。
12	卒業研究	譜読みを続けながら、楽曲の内容を把握するようにする。
13	卒業研究	楽曲の内容を把握しながら、曲全体の構成を考える。
14	卒業研究	楽曲の内容を把握しながら、構成の研究を進める。
15	卒業研究	楽曲の内容を把握し、全体の構成を考え、研究を進める。
16	卒業研究	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。
17	卒業研究	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。
18	卒業研究	楽曲の演奏の表現方法を研究する。
19	卒業研究	演奏の表現の方法を研究する。

20	卒業研究	楽曲の演奏法、表現の方法を研究する。
21	卒業研究	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、楽曲演奏に関連させる。
22	卒業研究	演奏曲の歴史的背景、文化的背景を研究し、演奏に関連させる。
23	卒業研究	卒業研究小論文の作成に入る。
24	卒業研究	担当教官と綿密な打ち合わせをし、参考文献等を選定する。
25	卒業研究	担当教官と参考文献を選定し、小論文の構成を考える。
26	卒業研究	小論文を作成しながら、演奏の全体を考えていく。
27	卒業研究	小論文を完成させると共に、演奏のまとめをしていく。
28	卒業研究	研究楽曲についての卒業論文を提出する。
29	卒業研究	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。
30	卒業研究	卒業研究発表会にて研究楽曲を演奏する。

科目名	音楽療法概論			講義コード	C191715001	担当教員	村井 満恵
対象	1 年	開講期	集中（前期）	必・選	選択	単位数	2
授業目標	【授業の目的・ねらい】 ①音楽療法士に必要な知識の習得 ②チームワークなど社会人としての基礎力の養成。 ③課題を発見し、自ら考え、解決する力を身につける。 【授業全体の内容の概要】 音楽療法の重要事項の内容を把握し、これからの音楽療法士に求められる知識を習得していく。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 音楽療法についての基礎的な知識を説明することができる。 音楽療法の対象者を理解でき、自主的に学ぶ姿勢を身につけることができる。						
受講資格	音楽科 1 年生			成績評価方法	①期末テスト50点 ②課題30点 ③小テスト20点		
教科書	音楽療法の基礎						
参考書	特になし						
学生への要望	グループワークに積極的に参加すること						
オフタイム	授業終了後						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス	授業の進め方、授業の概要を理解する。 予習復習の方法などを認識する。
2	古代と音楽療法	古代における音楽と病について探求する。 ギリシャ神話、古代ギリシャの哲学者について事前に調べておく
3	近代音楽療法	近代の音楽療法の始まり、発展について理解する。
4	音楽療法の対象者	音楽療法がどのような人々に求められているかを考え、 音楽療法の対象者を理解する。
5	音楽療法の目的	音楽療法の目的について、多角的に理解する。
6	音楽生理的作用	音楽が人間の身体にもたらす影響を医学的に認識する。
7	音楽の心理的作用	音楽が人間の感情や情緒をどのように変化させるか、音楽の心理的 な作用を学ぶ。
8	音楽の社会的作用	音楽によって引き起こされる社会的な生活への様々な影響を認識し、 集団への適応やコミュニケーションを促進する音楽の機能を理解す る。
9	同質の原理	同質の原理について学び、音楽療法の実践と結びつける。
10	児童領域の音楽	障害児について対象者理解、音楽療法の方法について学ぶ。
11	高齢者領域の音楽療法	高齢者について対象者理解、音楽療法の方法について学ぶ
12	精神科領域の音楽療法	精神科領域の音楽療法の方法について概観する。
13	音楽療法の方法	実践に際して行われる能動的音楽療法と受動的音楽療法について理 解する。
14	音楽療法の様々なアプローチ	精神分析的、行動療法的、人間主義的などの様々な立場の音楽療法 の方法を理解する。
15	まとめ	授業の全体を振り返り、わからないところを確認する。

科目名	音楽療法各論Ⅰ（基礎）			講義コード	C191715002	担当教員	三瓶 令子
対象	1 年	開講期	集中（前期）	必・選	選択	単位数	2
授業目標	○学生自身の感受性と感覚をひらき、障害や病気をもつ子どもや高齢者とセッションをしたり、シェアする者として働きかける「からだ」と、こちよく届く声をつくる。 ○学内でのまなびを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域施設において高齢者の前でセッションの体験をしてみる。 ◎履修カルテの評価項目 ①障害や病気をもつ子どもや高齢者とセッションすることのできるからだ、こちよく届く声をつくることのできたか。 ②現場で実践するために、プログラミングすることのできるか。 ③フィールド応用体験ワークとして、地域施設において高齢者の前でセッションの体験をしたことから学んだことは何か。						
受講資格	音楽科1年生			成績評価方法	レポート30点、実技70点		
教科書	「歌でコミュニケーション 福祉音楽80曲」 改訂版 相澤 保正編著 KYODO-MUSIC出版 2007年						
参考書	「療法的音楽活動のすすめ」 丸山 忠璋著 春秋社 2002年						
学生への要望	○適宜資料（プリント）を配布するので、各自ファイルを準備する。 ○運動着で参加する。 ○フィールドには、土曜日の午前中（日時未定）2時間を予定している。						
オフィス	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション	○音楽療法に関するイメージ、及び授業への要望等の調査「授業開始にあたって」の記入 ○各種プリントの配布と説明 ・「全国音楽療法士養成協議会」について ・「音楽療法学会」の現状と「音楽療法士認定規則」について ・「ピアノレスナーの音楽療法」等
2	音楽療法の発声について	○「楽しい発声のドリル」1, 2, 3によるレッスン（VTR使用） ・からだが届くということ、声が届くということとは
3	コミュニケーションをとる歌について①	○相手とコミュニケーションをとる歌をうたう ・手合せ歌「アルプス一万尺」「十五夜さんのもちつき」 ・ボディーパーカッションによる歌「かつこうのごあいさつ」 ・ゼスチャーとアクションの違い「大きな栗の木の下で」「あめふりくまのこ」「大きな古時計」 ・輪唱と交互唱の違いについて「森のくまさん」「こぶためきつねこ」「大きな歌」 ・4拍子のリズムあそび「あしたも元気で」
4	フィールドワークの準備	○プログラムの提示 ・自己の専攻とプログラムの整合性を図る ・唱歌・童謡・流行歌等の歴史と価値を学ぶ ・高齢者の青春とそれぞれの歌が流行した時代を対応させ、プログラミングしてみる
5	歌詞を感じて歌う Part1	○歌詞を感じて歌うためのレッスン 「野に咲く花のように」「度たちの日に」「あなたが夜明けを上げることもたち」「千の風になつて」
6	唱歌・童謡・流行歌を歌う	○明治期、大正期の唱歌、童謡を歌う ○さまざまな流行歌を歌う
7	フィールドとワークへの準備、及び練習①	○グルーピング ・専攻ごとのソロ・デュオ・トリオ等、組み合わせを考える ・全員で歌う曲を決める ・司会・進行者を決める ・高齢者へのセッションの方法を考える

8	フィールとワークへの準備、及び練習②	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
9	フィールとワークへの準備、及び練習③	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
10	フィールとワークへの準備、及び練習④	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
11	フィールとワークへの準備、及び練習⑤	○フィールドワークの準備と練習 ・高齢者へのセッション練習 ・これまで学んだ内容を元に、演奏方法を研究、練習する。
12	セッションの実際① リハーサル	○フィールドワークの準備と練習 ・本番を想定して、通し稽古をする ・タイムレコード・司会者とのタイミング・準備物・衣装等の確認
13	セッションの実際②	○フィールドワーク(「えぽか 本宮市」での実践)
14	セッションの実際③	フ○フィールドワーク(「えぽか 本宮市」での実践)
15	フィールドワークのまとめとⅡ期の反省(レポート提出)	○「えぽか」での体験について ・プログラムはどうだったか ・反応はどうだったか ・自分達の技術はどうだったか ○Ⅱ期で学んだ内容への反省

科目名	音楽療法総合演習			講義コード	C291715003	担当教員	春山 和見
対象	2 年	開講期	集中（前期）	必・選	選択	単位数	2
授業目標	身体に障害を有する人々と直接触れ合いながら、音楽療法の実践研修を通じて音楽療法学を習得する。						
受講資格	音楽科2年			成績評価方法	出席20点 レポート80点		
教科書	なし。						
参考書	死の瞬間の対話（E・キューブラー・ロス著） 涙の理由（ファム・デイン・ソン 加藤隆子著） スピリチュアル・ケア（ワデマール・キッペス著）						
学生への要望	臨床現場を通しての習得						
ウィスタム	授業終了後						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	音楽療法士のためのオリエンテーション	活推協事務局及びボランティア委員会による、オリエンテーション
2	音楽療法士のためのリハビリテーション概論 I	自立支援に向けてのリハビリテーション
3	音楽療法士のためのリハビリテーション概論 I	自立支援に向けてのリハビリテーション
4	日常生活支援について	看護・介護の場面での日常生活支援について
5	認知症に対する理念とコミュニケーションの技法	認知症患者に対する音楽療法士の理念とコミュニケーションの技法
6	社会福祉士の役割	診療連携と社会福祉士の役割
7	社会福祉士の役割	診療連携と社会福祉士の役割
8	医療機関におけるヒーリングセラピー	なぜ癒やしの空間が求められるのか
9	癒やしと日本文化の実践	茶道の実習を通して癒やしと日本文化を考える
10	終末医療概論	現代の終末医療を考える
11	音楽療法士のためのリハビリテーション概論 II	自立支援に向けてのリハビリテーション
12	音楽療法士のためのリハビリテーション概論 II	自立支援に向けてのリハビリテーション
13	音楽療法の実際	現場での音楽療法士の実際
14	音楽療法士の実践的要諦	実習を通して、音楽療法士について総合的に考える
15	スピリチュアルケア及びグリーフケアと芸術	スピリチュアルケア及びグリーフケアと芸術 (音楽療法)

科目名	教育原理			講義コード	C110983001	担当教員	石堂 常世、佐久間 邦友
対象	1 年	開講期	I 期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目指す。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習ようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職業の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。 さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスをを培うようにする。 <履修カルテの評価項目：到達目標> ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考察することができたか。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。 ③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになったか。						
受講資格	短期大学部 家政科福祉情報専攻 1年 2単位 選択 短期大学部 生活芸術科 1年 2単位 選択 短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択			成績評価方法	①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価が10% ②学期末筆記試験の結果が80% この2つの総合点に、授業中の積極性が見られた場合は加算、欠席等が多い場合やレポート提出がない場合は減点措置をとる。		
教科書	教科書は特に定めない。 その代わりに、毎回の授業にはその日の授業内容を詳述したレジュメ（内容の中身）を配布するので、それらを「教育原理」専用ファイルに綴じ、授業の際には必ず持参し、試験前にはしっかり再読して、常に理解を深めること。 尚、以下の参考書の欄を参照。						
参考書	①第1の参考書は、安彦忠彦・石堂常世編著『最新教育原理』勁草書房、2016版、2,200円＋税。希望者には80%にて取り寄せます。 ②一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。 それら指定資料は、おおむね図書館に揃えてあります。						
学生への要望	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐるアクティブな意見交換の形式を導入することで、教育問題への考察を習慣づける。したがって、受講生には主体的な学習を求める。 1 学問的要望 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがああり、それを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を理解することで主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想や教育論を生き生きと理解することができる。 授業中に出てくる思想家、哲学者、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、その次の授業までに可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、それらのコピーを取っておいて知識を確実にしよう。 2 守るべきこと ・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。 ・参考書は授業中に教示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業に、そのファイルを持参すること。 ・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。 ・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出しても認められない。通常はA4の用紙に印字してくること。 ・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。						
ウェブサイト	随時、時間のあるときに受け入れるので、相談希望の場合、メールで確認のアポをとること。 石堂：ishidoh@koryama-kgc.ac.jp 佐久間：kunitomo@koryama-kgc.ac.jp 即時にメールで日時や面談場所を返信し、確認し合って質問、相談に応じます。						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	主観的体験・主観的見方から客観的見方への転回へ 1 家庭教育という人間形成の基盤 レポート（次回提出）「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の構造 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育学の構造を知る 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置

2	「教育」の意味に関する思想的アプローチ	1 レポート「私がうけた家庭教育の意義」の発表・意見交換 本論 1 教育の意味をどうとらえるか 消極的教育と積極的教育の意味 教育educationの語彙からさぐる教育の原理 2 人間的成長の本質を考える 植物の育成、動物の飼育と成長、 そして人間の成長
3	子どもを取り巻く環境の変化と今日的課題	1 発達の問題、親の変化・家庭の変化 2 生活の変化と子どもへの影響関係 3 地域の教育力 郡山市教育委員会の試み 4 子どもの主体性と自律性をどう育てるか 5 グローバル時代の教育観：地球市民育成論 6 学校が担うあらたな役割 子どもの貧困問題の中で
4	西洋の教育思想を学ぶ：①古典の部	1 イデアリズム（観念論）の人間像と教育観 ギリシャ時代：ソクラテス、プラトン、アリストテレス、 近世・近代：モンテーニュ、カント、アラン等の系譜 2 宗教的教育観 聖書の教えと、アウグスティヌス、 トマス・ア・ケンピス、コメニウスのパターン 3 感覚論的教育思想（科学的人間観的教育論） ロック
5	西洋の教育思想を学ぶ：②近世～現代の部	4 子ども中心的教育思想：「新教育」の教育思想 子どもの成長そのものを教育とみる考え方 ルソー、エレン・ケイ、ピアジェ、デューイの系譜 5 社会の継承発展の機能としての教育観 国家の管轄下に置かれた20世紀の学校と教育の機能 デュルケイム とくに、1945年以降の教育社会学の影響 6 学校崩壊論：「学校のない社会」という思想の求めていること 管理主義型学校教育への批判と解放論 他方、不登校児童・生徒の増加の問題 復習：主要な教育論者の著作の主張点を振り返る。
6	日本の教育思想	1 江戸時代末までの教育観：日本人の精神的骨格 「実語教」に学ぶ人間的熟成：儒教的人間像 2 「教育勅語」に支配された戦前までの教育：近代国家への躍動 の中の学校教育 3 「教育基本法」と戦後の教育：アメリカ型学校教育の受容とそ れらの変化 4 経済発展の中の受験体制と偏差値という重圧
7	学習指導要領と学校教育の展開	1 学習指導要領とは何か：教育法令の基礎から理解する 2 教育課程（カリキュラム）編成の在り方 教科の構造・学習の構造 学問的系統性と子どもの自主性・関心の相克 思想研究：ヘルバルトとデューイの相違 コンピューター活用の授業と学習形態の変化 3 国際比較からみたカリキュラム編成のあり方 教育行政の在り方との特色 4 今日の学力の国際比較とそれがもたらしたこと
8	教育法規の体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法・同施行規則
9	日本の教育制度と行政	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム
10	学校制度の類型	1. 学校制度の類型—単線型と複線型— 2. 他国の教育制度 3. 私教育と公教育の違い
11	「学校」という空間	1. 学校・教室の風景 2. フリースクール 3. 子供の放課後活動の変遷
12	生涯学習社会	1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状

13	教育改革の背景と実際	1. 今日の学校を取り巻く状況の変化 2. 教育改革の過程 3. 教育改革とアクター
14	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	1. 子供の貧困
15	日本社会が抱える教育に関する病理（2）	1. 教員の多忙化 2. モンスターペアレント 3. 授業後半のまとめ

科目名	教職論			講義コード	C110983002	担当教員	佐久間 邦友
対象	1 年	開講期	I 期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	〔授業の目的・ねらい〕 授業のねらいは、教職についての基本事項(教職の意義、教員の役割等)を把握し、現行教員養成制度の原理とその課題について理解し、それに対応する力を身につけ、自らが教育の専門職としての教師像・観を形成できることを到達目標とする。 〔授業全体の内容の概要〕 授業は、基本講義形式で行うが、小レポートの作成、VTRの視聴、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。また現役の教員をゲストスピーカーとして招き、講演会を開催する予定である。 〔履修カルテの評価項目〕 ①教職の意義や教師の役割、責務をどの程度理解できたのか。 ②教師に求められる資質能力を理解し、己の教師観を確立することができたか。 ③現代の教育課題について理解することができたのか。						
受講資格	教職等に就くことを希望する者				成績評価方法	試験 (70%)、レポート (20%)、授業参画度 (10%)	
教科書	佐藤晴雄『教職概論 第4次改訂版』学陽書房 2015年						
参考書	授業中に適宜紹介する。						
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。 事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと 事後学習：授業を踏まえて、レジュメを使ったノートまとめ						
ワイタイル	火曜日 II 限 (10:30~12:00) 教職課程推進室 (佐久間ブース) そのほかの時間帯は、kunitomo@koryiyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教師の影響力を考える
2	ドラマの中の教職観と理想の教師像	1. 学習者にとっての理想の教師像 2. テレビドラマから見た理想の教師像 3. ドラマ教師の条件
3	体験の中の教職観と理想の教師像	1. 教師像をめぐる問題 2. 日本の伝統的な教師像 3. 教師観の変遷から見た理想の教師像
4	教職の意義	1. 教職とは何か 2. 教職の意義
5	教師と教員養成の歴史	1. 師範学校における教員養成 2. 戦後の教員養成制度 3. 教員免許制度改革の動向―「学び続ける教師」―
6	教員の任用と服務	1. 教員の配置と任用 2. 教員の身分と任用 3. 教員の服務 4. 身分保障と分限・懲戒 5. 勤務条件
7	教師の役割と仕事 (1)	1. 教師の法的役割と役割意識 2. 教師の仕事の特質と内容
8	教師の役割と仕事 (2)	1. 教師の仕事の実際 2. 生涯学習社会における教師への期待
9	教師の職場環境	1. 教師の勤務実態 2. 教師の悩みと不満 3. 学校での人間関係 4. 教師のライフサイクル
10	専門職としての教師	1. 教師の資質・能力 2. 他業種との比較からみる専門職としての教師

11	教師の資質向上と研修	1. 教師の力量形成と研修制度 2. 教員免許更新制度
12	管理職・主任の役割	1. 校長の役割と権限 2. 副校長・教頭の役割のリーダーシップ 3. ミドルリーダーの機能 4. 管理職試験
13	教育実習の意義と心得	1. 教育実習の意義 2. 教育実習の心得 3. 学習指導案と授業の実際
14	教職への進路選択と教員採用選考	1. 進路選択 2. 教員採用試験の実態 3. 教員採用試験の傾向と対策
15	面接・模擬授業	1. 面接対策 2. 模擬授業

科目名	社会福祉概論			講義コード	G210715003	担当教員	添田 祐司
対象	2 年	開講期	Ⅲ期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	社会福祉学は人間の幸福を追求する理論と実践を扱う学問である。 この授業では、社会福祉とは何かから始め、今日の社会の変化と、それに対応する社会福祉の動向を学び、さらに、 現実の社会福祉がどのような役割を担っているのかを学ぶ。						
受講資格	特になし			成績評価方法	定期試験 70%、ふりかえりレポート 30%。 出席状況により減点あり		
教科書	プリントを配布する。						
参考書	「社会福祉を学ぶ」 嵯みらい						
学生への要望	主体的に学ぼうとする姿勢を期待する。						
ワキタム	月曜日のⅢ時限、Ⅳ時限（12:50～16:00） 創学館4F、No. 2研究室						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション	福祉ってなんだろう
2	社会福祉へのみちびき	私たちの生活と社会福祉
3	社会福祉のあゆみ	日本の社会福祉のあゆみ
4	改革期の社会福祉	少子高齢化社会の進展 社会福祉基礎構造改革
5	社会福祉のしくみ	社会福祉の法体系と行財政
6	生活保護	生活保護制度のしくみ
7	子どもと家庭の福祉	子ども家庭福祉サービスとしくみ
8	高齢者の福祉 1	高齢者を取り巻く状況
9	高齢者の福祉 2	介護保険と地域包括ケアシステム
10	障がいのある人の福祉 1	障がいについての理解
11	障がいのある人の福祉 2	障がいのある人の福祉の基本理念
12	地域の福祉	地域福祉とは
13	社会福祉の担い手	社会福祉専門職の倫理と資格制度
14	社会福祉とソーシャルワーク	ソーシャルワークとは
15	現代社会と社会保障 / まとめ	私たちの暮らしと社会保障 まとめ

科目名	生理学			講義コード	G220715001	担当教員	金子 依里香
対象	1 年	開講期	IV期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	[授業の目的] この科目は音楽療法士（二種）養成の教育課程科目の一つである。音楽療法士に必要な、人体の仕組みと働きについての理解を深める。 [内容の概要] 細胞の構造、骨格系、筋系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、生殖系および内分泌系など、人体の構造とそれらの機能について系統立てて学ぶ。 [到達目標] 身につけた生理学の知識をいかし、音楽だけでなく科学的な視点から人々の心身の健康に働きかけることができる。						
受講資格	特になし			成績評価方法	授業中に課す数回のミニテスト20点および期末試験80点満点の100点満点で評価する。60点以上で単位を認定する。		
教科書	久木野憲司 著 「解剖生理学」金原出版株式会社、京都（20・第7刷） 2,700円（税別）						
参考書	高校で使用した生物基礎の教科書・参考書等の復習を勧める。						
学生への要望	教科書を読みながら、事前に配布する授業内容を抜粋した予習プリントを作成したうえで、その日の授業に臨むこと。また、授業中はしっかりノートを取り、集中して受講する。						
ワイタム	水曜日14:30～16:30および木曜日16:10～17:05 担当教員研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。
2	細胞の構造と機能	細胞内に存在する、核、ミトコンドリア、ゴルジ体、などの細胞内小器官について学び、これらの細胞が集まり生物のからだ構成されていることを理解する。
3	骨格系	骨格系と筋系は運動器系ともいわれ、ともに身体を運動させるために働く。骨格は人体の支柱であり、筋と付着部を持つ受動的運動器である。骨の微細構造や造血機能について理解する。
4	筋系	骨格系と筋系は運動器系ともいわれ、ともに身体を運動させるために働く。筋は能動的運動器である。筋の微細構造を学ぶとともに、筋収縮の機序について理解する。
5	神経系の一般的性質	神経系は、体内における情報伝達や調節に重要な役割を持つ。神経系の分類、神経系を構成する要素について、そのつくりと働きについて学ぶ。
6	中枢神経系	脊椎動物の神経系は中枢神経系と末梢神経系の2つに大別される。中枢神経系は脳と脊髄からなり、神経系の中枢として情報の処理や効果器への命令を出す司令塔的役割を持つ。脳と脊髄の構造を学ぶとともに、大脳などの主要な部分の機能について理解を深める。
7	末梢神経系	末梢神経系とは、中枢神経系と、からだの各器官や末梢部分を連絡する役割を持つ神経組織である。末梢神経系は形態学的に分類すると脳神経と脊髄神経に分かれる。また、「どんな働きをするか。」で分類すると体性神経と自律神経の2つに分けられる。ここでは脳神経と脊髄神経の分布について理解を深める。
8	循環器系（1）	循環器系は物質の運搬役として大切な役割を担っており、生命維持にとってとても重要な存在である。ここでは、心臓の構造と機能について学び理解を深める。
9	循環器系（2）	心臓から出ていく血管を動脈、心臓に入ってくる血管を静脈という。ここでは血液を含めた体液の組成を学ぶとともに脈拍、血圧についても理解を深める。

10	消化器系	消化器系とは、食物を摂取し、それを腸管から吸収できる程度まで分解し、吸収して血液に送る働きを行い、食物残渣の排泄をつかさどる器官の集まりをいう。ここでは、消化器器官として胃と腸について学び、主要な栄養素の消化と吸収について理解を深める。
11	感覚器系（一般的性質）	ヒトは接触、音、光など、受ける刺激の種類によって、異なる感覚情報が生じる。それぞれの感覚には、感覚器と感覚中枢（感覚野）が備わっており、独特の仕組みが存在している。ここでは、感覚の種類と特異性について理解を深めるとともに体性内臓感覚についても学ぶ。
12	感覚器系（視覚・聴覚）	物の形、色、位置、動きなど、外界からの情報を光（可視光）によって得るのが視覚である。ここでは、目の構造・機能・視覚の質について理解を深める。 耳には、聴覚と平衡感覚の受容器がある。耳の構造を学ぶことで、聴覚と平衡感覚について理解を深める。
13	呼吸器系	呼吸の役割は、体内の各細胞に代謝に必要な酸素を供給し、不要となった二酸化炭素を排出することにある。呼吸器系のつくり、呼吸運動、肺の中の気体の量について理解を深める。
14	生殖系	女性生殖器系を中心に、卵巣の構造と機能、排卵の機序などを学ぶ。女性生殖器は女性ホルモンの影響を強く受けることから、排卵とホルモン分泌の関連性についても理解を深める。
15	内分泌系	ホルモン分泌系は内分泌と呼ばれる。ホルモンは生態を維持する上で必要不可欠なものである。ここでは、内分泌腺の分布に加えてホルモンの分泌機構とその調節を学び、理解を深める。

科目名	小児保健			講義コード	C210715001	担当教員	永瀬 悦子
対象	2 年	開講期	Ⅲ期	必・選		単位数	2
授業目標	[授業内容の概要] 人間の一生の中における小児期は絶えず成長・発達をしている。子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 [授業の目的・ねらい] 小児保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法についての知識を習得し、小児に対する対応を身につける。 [目標] 1) 子どもの成長・発達について理解する。 2) 子どもにみられる疾病とその対処法について理解する。 3) 子どもの救急処置（起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生法）について理解する。						
受講資格	音楽療法士資格取得希望学生			成績評価方法	期末試験80点、レポート・課題20点		
教科書	※資料を随時配布 服部右子編 『子どもの保健Ⅰ』 (株)みらい						
参考書	巷野悟郎、岩田力、前澤真理子編著「子どもの保健—理論と実際—」同文書院 新保育士養成講座編集委員会編 新保育士養成講座第7巻「子どもの保健」 社会福祉法人 全国社会福祉協議会						
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。						
ガイダンス	水曜日 IV時限 (14:30~16:00) 832研究室						

－ 授業内容とスケジュール －

回	授業計画項目	授業計画項目
1	子どもの保育と保健	子どもの成長・発達の把握と評価の意義を理解する。
2	小児の発達、小児の生理機能	小児の運動機能、精神発達について理解する。 子どもの身体計測と評価について理解する。
3	子どもの健康状態の把握	元気な子どもの健康状態の見方、病気の子どもの健康状態の見方について理解する。 子どもの生理機能の測定と評価について理解する。
4	先天異常	受精のメカニズム、遺伝に関する基礎知識と先天代謝異常・染色体異常について理解する。
5	感染する病気	感染症と要因、感染経路と対策、学校保健安全、子どもに多く見られる感染症について理解する。
6	呼吸器系	呼吸器系の構造と役割、呼吸器系の関連疾患について理解する。
7	循環器系、消化器系	循環器系の構造と役割、循環器系の関連疾患について理解する。 消化器系の構造と役割、消化器系の関連疾患について理解する。
8	血液系と腎・泌尿器系	血液系の構造と役割および関連疾患について理解する。 腎・泌尿器系の構造と役割および関連疾患について理解する。
9	内分泌系、アレルギー	ホルモンとは何か、その代表的な疾患について理解する。 アレルギーで起こる病気について理解する。
10	脳・神経系、皮膚の病気	脳・神経系の構造と役割と関連疾患について理解する。 小児に多くみられる皮膚疾患について理解する。
11	骨、関節、筋肉系、眼・耳・鼻・口・歯系	小児の代表的な骨、関節、筋肉系の疾患について理解する。 感覚器系の構造と役割と関連疾患について理解する。
12	精神保健	子どもの心の発達と精神保健、心の健康や行動の問題について理解する。
13	主な症状のメカニズムと対処法①	発熱、脱水、せき、喘鳴の症状のメカニズムと対処法について理解する。
14	主な症状のメカニズムと対処法②	腹痛、下痢、嘔吐、便秘のメカニズムと対処法について理解する。

科目名	教育心理			講義コード	C110983003	担当教員	折笠 国康
対象	1 年	開講期	I 期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。 【履修カルテの評価項目】 ①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。						
受講資格	短期大学部 家政科 福祉情報専攻 1年 短期大学部 生活芸術科 1年 短期大学部 音楽科 1年			成績評価方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、定期試験70%で行う。		
教科書	特に指定はない。						
参考書	講義の中で、適宜紹介する。						
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。						
ワイルド	金曜 2限 835						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。
2	自己に関わる心理学 (1)	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
3	自己に関わる心理学 (2)	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。
4	自己に関わる心理学 (3)	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。
5	記憶と思考 (1)	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
6	記憶と思考 (2)	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。
7	動機づけの心理学 (1)	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
8	動機づけの心理学 (2)	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。
9	学級の心理学 (1)	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。
10	学級の心理学 (2)	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。
11	学級の心理学 (3)	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。
13	アドラー心理学 (1)	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。

14 アドラー心理学（2）

アドラー心理学を概観し、人間の行動に関する目的について理解する。
また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。

15 本講義のまとめ

本講義の内容を振り返り、心理学的な知見のまとめを行う。

科目名	心理学			講義コード	C210715002	担当教員	富士盛 公年
対象	2 年	開講期	Ⅲ期	必・選	選択	単位数	2
授業目標	本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に現場に出て、この理念を持って、人に対しては責任を持ち、人に尊敬の念を持って、人としての力を形成することを目指す。						
受講資格	音楽科2年			成績評価方法	レポート2回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。		
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する。						
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。						
ワキタイル	水曜日午後3時から5時 富士盛研究室						

- 授業内容とスケジュール -

回	授業計画項目	授業計画項目
1	ガイダンス	授業のオリエンテーション 成績評価についての説明 学習目標の設定
2	心理学とは	どのような理論から、どのようなプロセスで心理学が成立するかについて、考える。
3	なぜ心理学を勉強するか	危機場面で役立つ理論と技法 心理学を学ぶことで、現場で対応できるように理論と知識を習得するための目標設定を考えさせる。
4	心理学の分野	教育心理学、発達心理学、臨床心理学などの分野の歴史と理論
5	心理学の理論	人格や性格の理論を紹介する
6	芸術表現からアセスメントへ その1	カラージュ 風景構成法 バウムテスト 箱庭療法の紹介
7	芸術表現からアセスメントへ その2	カラージュ 風景構成法 バウムテスト 箱庭療法の紹介
8	交流分析 その1	人間関係のコミュニケーションを分析する エゴグラムの分析
9	交流分析 その2	脚本分析 人間関係のゲームと人生の方向転換
10	臨床心理学の理論	無意識と意識 トラウマとPTSD 精神疾患や人格障害
11	事例 その1 虐待	虐待がなぜおきるか 虐待の現状と問題点 虐待への対応 虐待事例
12	事例 その2 発達障害	発達について 母子関係の問題点と現状 精神発達遅滞の理解について 精神発達遅滞の子どもへの対応
13	社会心理学	社会と人間の集団心理の理論 調査の方法
14	カウンセリング	カウンセリングの理論と方法
15	まとめ	講義のまとめ